「まちづくりアイデアコンペin東静岡」実施報告

概要

目的

（仮称）静岡市アリーナ（計画中）を核とした「東静岡地区まちづくり基本構想」の作成にあたり、まちづくりに対する幅広い方々の多様なアイデアを提案していただくことを目的としてコンペを実施しました。

テーマ

“「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」”

～最先端の文化・スポーツ・国際交流等による新たな交流・滞在と、
安心して住み続けられる住環境が共存する、新時代のまちづくり～

募集部門 以下の２部門を設定し、提案を募集しました。

都市デザイン部門

主な対象者を、建築・まちづくりの専門家やそれらを専攻する学生とし、都市の将来像やその実現に向けた方策・プロセスについて、提案を募集しました。

まちを楽しむ部門

主な対象者を、地域でまちづくり活動をしている人や幅広い市民とし、広場・公園・街路等の公共的空間を活用して、新たな魅力や豊かな生活を生み出す活動のアイデアについて、提案を募集しました。

スケジュール

- **事前登録**　令和６年７月26日（金）から 令和６年９月27日（金）まで
- **説明会**　令和６年８月22日（木） 静岡市役所にて
- **提出受付**　令和６年９月30日(金)から 令和６年10月31日(木)まで
- **１次審査**　令和６年11月中旬(非公開)
- **最終審査**　令和６年12月８日(金) グランシップにて

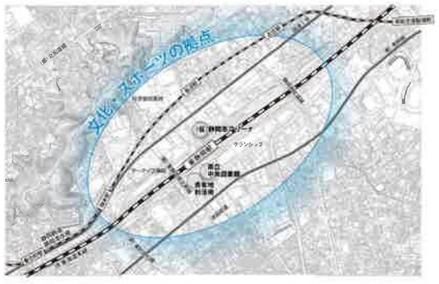
最終審査では、プレゼンテーション・審査・表彰式を一般公開し、約140人が来場されました！

最終審査の様子

対象区域

提案の対象は、右記の「文化・スポーツの拠点」のエリアを中心としました。

このエリアに限らず周辺の主要な施設や資源等との連携など、東静岡地区との連携によりまち全体へ波及効果のある提案も可としました。



対象区域案内図

審査委員

遠藤 新	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	**長尾 亜子**	静岡理工科大学 理工学科 建築学科 準教授	**小嶋 文**	埼玉大学 理工学研究科 準教授
西 美有紀	（一社）草薙カルテッド（都市再生推進法人）	**中村 直保**	静岡市自治会連合会 会長	**吉田 信博**	静岡市 副市長

結果

令和６年11月中旬に実施された１次審査にて、最終審査に進む作品が選定されました。さらに12月８日(金)に開催した最終審査により、以下の各受賞作品が決定しました！

● 都市デザイン部門

作品名	所属等	氏名	参照
最優秀賞			
LIFE Streaming	㈱竹中工務店	小南　嘉久（他３名）	4
優秀賞			
東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想都市 -a foundation stone of an exemplary city-	デザインオフィス創造舎	山梨　洋靖（他２名）	5
入賞			
CONNECT PARTS CITY “HIGASHI SHIZUOKA”	東日本旅客鉄道㈱	青木 麻里子（他３名）	6
「かいゆう」のまち	㈱アークポイント	吉田　敦（他４人）	7
青春を育むまち 小さな活動を耕し、世代を超えて青春するまち	日本工営都市空間㈱	吉野　良佑（他２名）	8
WEAVING NETWORK -東静岡の流れと変化を受け止める編み目-	Research + Design School in 静岡	高田　彩実（他３名）	9
ヒガシズ　際立つ！ ～際立ちをきっかけに、人々が活き活きとしはじめる～	大成建設㈱	鈴木　隆博（他６名）	10
Living in New Society	㈱アール・アイ・エー	松井　崚（他３名）	11
まち まるごとアリーナ ～アリーナに頼りすぎない新たな副都心のつくりかた～	信州大学大学院	吉武　駿（他１名）	12
マッシュアップ リング -ヒューマンスケールデザインによる”ヒガシズ文化”の形成-	㈱地域計画建築研究所	増見　康平（他４名）	13

● まちを楽しむ部門

作品名	所属等	氏名	参照
審査委員特別賞・入賞			
みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード	設備設計	松浦　智香	14
会場人気特別賞・入賞			
ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ	静岡英和学院大学	青島　愛花	15
入賞			
マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり	三菱地所プロパティマネジメント㈱	髙田　光真（他１名）	16
グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」の開催 ～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～	静岡県立大学	櫻井　莉子（他１名）	17
安心してボール遊びのできる公園にするための工夫 ～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～	静岡県立大学	小澤　由佳（他１名）	18

● 学生未来賞※

※都市デザイン部門において、学生の努力や熱意を称えるため、審査委員が選定したもの

作品名	所属等	氏名	参照
enで紡ぐ東静岡	日本大学	吉田　明斗（他７名）	19
てくてく東静岡	名城大学	松井　優星（他２名）	20
Next東静岡 ～創る・継げる・結わえる街へ～	日本大学	藤崎　知輝（他３名）	21
東静岡駅前巨大デッキ	静岡県立科学技術高等学校	宮川　稔彬	22

応募件数・応募者の属性

応募件数

都市デザイン部門　28作品（96名）

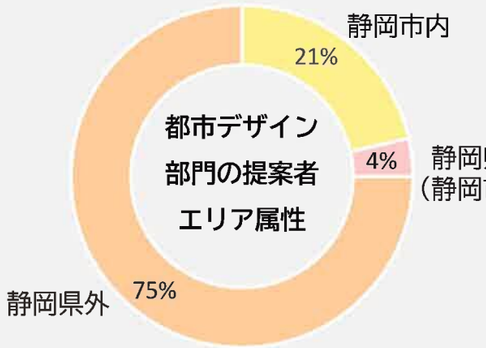
まちを楽しむ部門　8作品（11名）

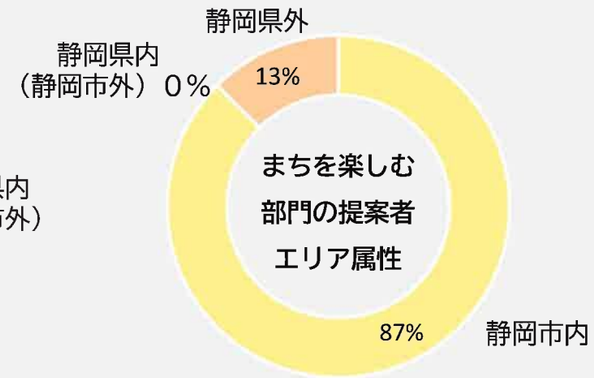
総勢107名からの
ご提案がありました！

提案者の属性

【提案者のエリア属性】

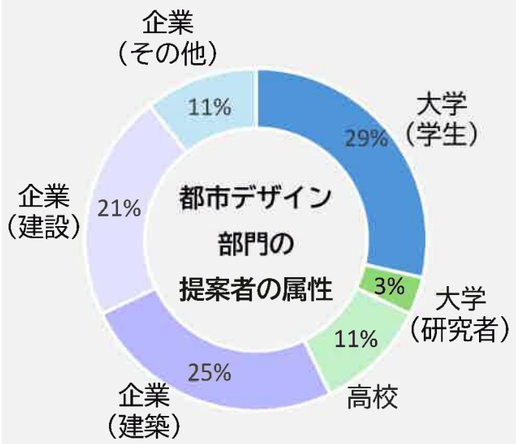
静岡市内にとどまらず、広い地域からの応募がありました。

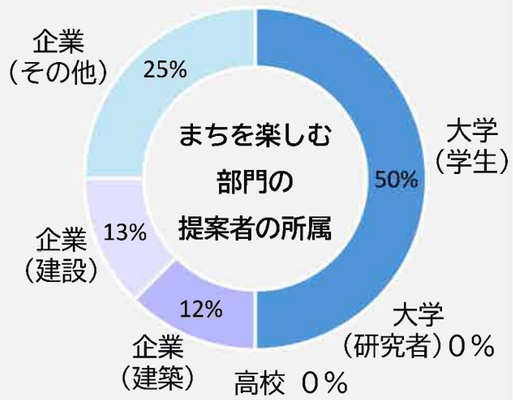




【提案者の所属】

学生から社会人までの幅広い世代の方からの応募がありました。両部門の応募者を合わせると、15名もの学生がコンペに携わりました。



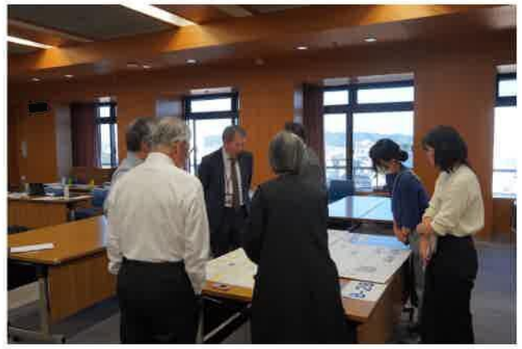


審査の様子

１次審査

東静岡の魅力を高める多数の応募作品の中から、最終審査に進む作品が決定！

各審査委員が推薦した作品に対する意見交換を行い、作品の評価すべきポイントを話し合いました。活発な議論を重ね、各部門の最終審査に進む作品を選出しました。また、「学生に将来もまちづくりに関わってほしい」「公の場（最終審査）で発表する経験を今後につなげてほしい」という東静岡地区まちづくり協議会委員や審査委員の想いから「学生未来賞」を追加し、４作品を選出しました。



最終審査

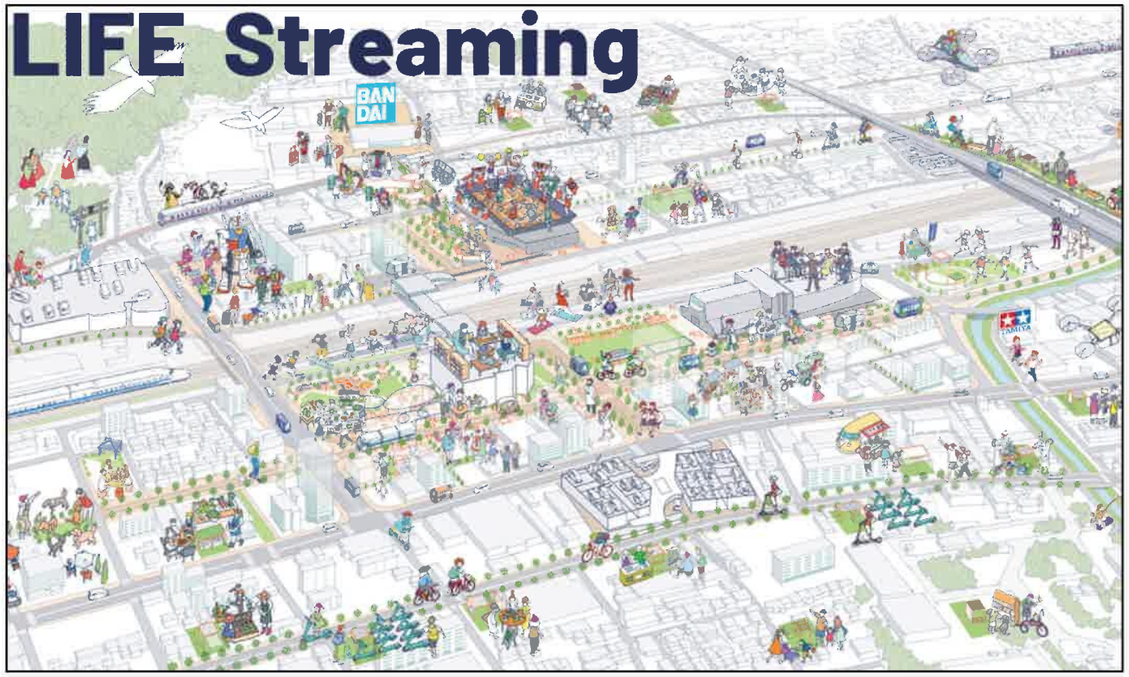
活発な議論を重ね、魅力的な作品の中から投票及び審査により各賞が決定！

最終審査は一般公開で多くの方に来場していただきました。オンライン投票を用いた会場人気特別賞の決定では、会場が一体となって東静岡地区のまちづくりを考えました。提案者と審査委員の質疑応答が活発に飛び交う審査となり、審査委員から複数の提案者に対して質問し、提案者が順番に答えていく場面もありました。こうした審査を経て、投票により、都市デザイン部門・まちを楽しむ部門の各賞を決定しました。

都市デザイン部門　最優秀賞作品のご紹介

LIFE Streaming

（株）竹中工務店 / 小南 嘉久 様・西松 直樹 様・松居 咲帆 様・遠藤 瑞帆 様



LIFE Streamingの概念図

新たなライフスタイルとコミュニティを共創・共育する、市民主体のまちづくりを促す仕掛け

まちなかのパブリックスペースの中で、市民のスポーツや文化等の多様なアクティビティの流れを生み出す仕掛けにより、「非日常と日常を融合」「新しいライフスタイルとコミュニティを共創・共育」することを「LIFE Streaming」というタイトルで提案されました。また、その具体的な実現手法として４つのまちづくりの仕掛けが提案されました。
①Streaming PLOT（公共空間のリ・デザイン）　②Streaming WALK（道路空間と交通体系のリ・デザイン）
③Streaming LAB（地域価値創出のリ・デザイン）　④Streaming PLATFORM（地域マネジメントのリ・デザイン）

審査委員の講評（要点）

「まちに合わせた魅力的なものをどのように生み出していくのか」という視点が考えられていました。まちづくりを促す仕掛けが４つの視点から考えられており、提案のバランスが良かったです。

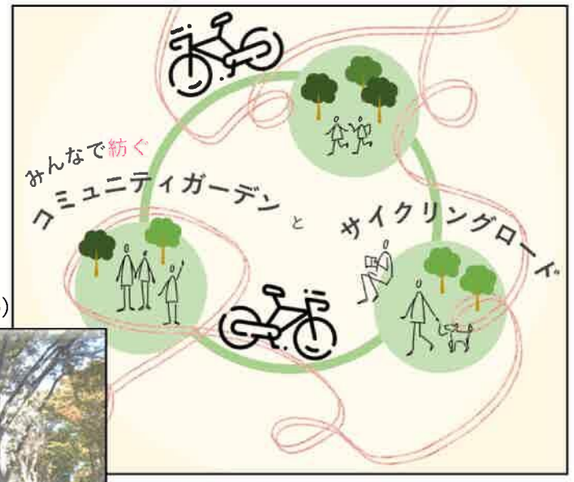
作品に対する想い（提案者インタビューより）

「非日常と日常」「建築と公共空間」「地区と周辺」が互いに寄り添うことが大切で、東静岡ではそれらの関係性をより充実させることが有効だと考え、まちにアクティビティの流れを生み出すことで新たなライフスタイルとコミュニティの循環を向上させることを考えました。また、持続可能な共創・共育を実現するためには、クラウドファンディングを介した市民のまちづくりへの参加やアクティビティを誘発するシステムとアプリケーションの導入が有効だと考えました。

まちを楽しむ部門　審査委員特別賞作品のご紹介

みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード

設備設計 / 松浦 智香 様



コミュニティガーデンとサイクリングロードの概念図

コミュニティガーデンのイメージ（県立美術館近くのバス停）

子どもたちが、夢や可能性を抱くきっかけとなるような空間の創出

「子どもたちが、夢や可能性を抱くことのできるきっかけとなるような空間」にするために、「コミュニティガーデン」を子どもたちが様々な世代と交流することができる場とし、「サイクリングロード」を子どもたちが自分自身で「選択」する経験と能力を培える場とすることが提案されました。また、近隣住民の主体的な参加や運営方法を確立してから地区外からの訪問者の利用を促すことで、包括的で不満のない発展を目指すことが提案されました。

審査委員の講評（要点）

この地区で成功したモデルを横展開できるといった観点で、「まちを楽しむ」ことの汎用性が高い提案でした。サイクリングロードでコミュニティをつなげるという発想が良かったです。

作品に対する想い（提案者インタビューより）

様々な世代と関わることが難しい現代で、子どもが自分と異なる世代と交流する経験が、大人になったときの糧になってほしいという想いで提案しました。また、サイクリングロードを介してコミュニティガーデンでの活動を目にして興味をもってもらうことが、今後つくられる素敵な空間（新県立中央図書館のラボラトリーなど）の活用の誘導につながるのではないかと考えました。アリーナについても、建設の過程で住民が関わる機会をつくることで、新しい場に対する住民の愛着が生まれると思います。

LIFE Streaming

01　まちづくりの課題と視点

都心への一極集中や少子高齢化に伴う人口減少によるにぎわいの低下、災害時に助け合える地域コミュニティの弱小化など、地域社会の課題は多様化・複雑化している。また、テレワークやライブストリーミング、メタバースなどのデジタル技術の普及によりコミュニケーションが多様化し、若者をはじめとして、人々が実空間で活動し、交流する場としての都市のあり方が問い直されている。
東静岡地区は、1990 年代以降の東静岡駅周辺土地区画整理事業を機に大きく変貌を遂げつつあるが、地区内の都市施設の集積の裏に都市空間としての課題を抱える。

課題①：非日常（スポーツ・文化）と日常（生活環境）との関係性が希薄
- 来街者と居住者の活動が乖離し、交流の接点が欠如
- 大量生産に伴う生活環境画一化の懸念
- 区画整理事業内外の土地利用や道路基盤の格差

課題②：公共空間の魅力欠如
- 車中心の道路が多く、交通弱者の懸念
- 鉄道や国道で回遊性が分断
- 居心地の良い場所が極少ない

課題③：植物と外部空間（道路・公園・広場）との関係性が希薄
- 個人的時間と内部での活動が見えない
- 外部空間に日常的なアクティビティや交流の場が少ない

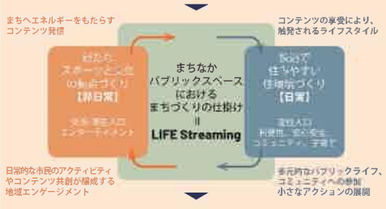
課題④：周辺エリアとの 2 次交通アクセスが脆弱
- 周辺の自然環境資源、観光コンテンツ、大学や病院を回遊直接する 2 次交通が弱い

02　まちづくりコンセプト

“ LIFE Streaming ”

東静岡発　新たなライフスタイルとコミュニティを共創・共育する　市民主体のまちづくりを促す仕掛け

まちづくりの仕掛けとなる、公共空間や地域マネジメント等のリ・デザインにより、スポーツ・文化など多様なコンテンツやアクティビティの流れ（ストリーム）を生み出す



「いつでもスポーツや文化とつながる、健康でアクティブなライフスタイル」
「だれもがスポーツや文化を通じてつながる、多様で重層的な交流・コミュニティ」
を市民が主役となって共創・共育するまちづくりの提案

LIFE Streaming によって生まれるまちのすがた

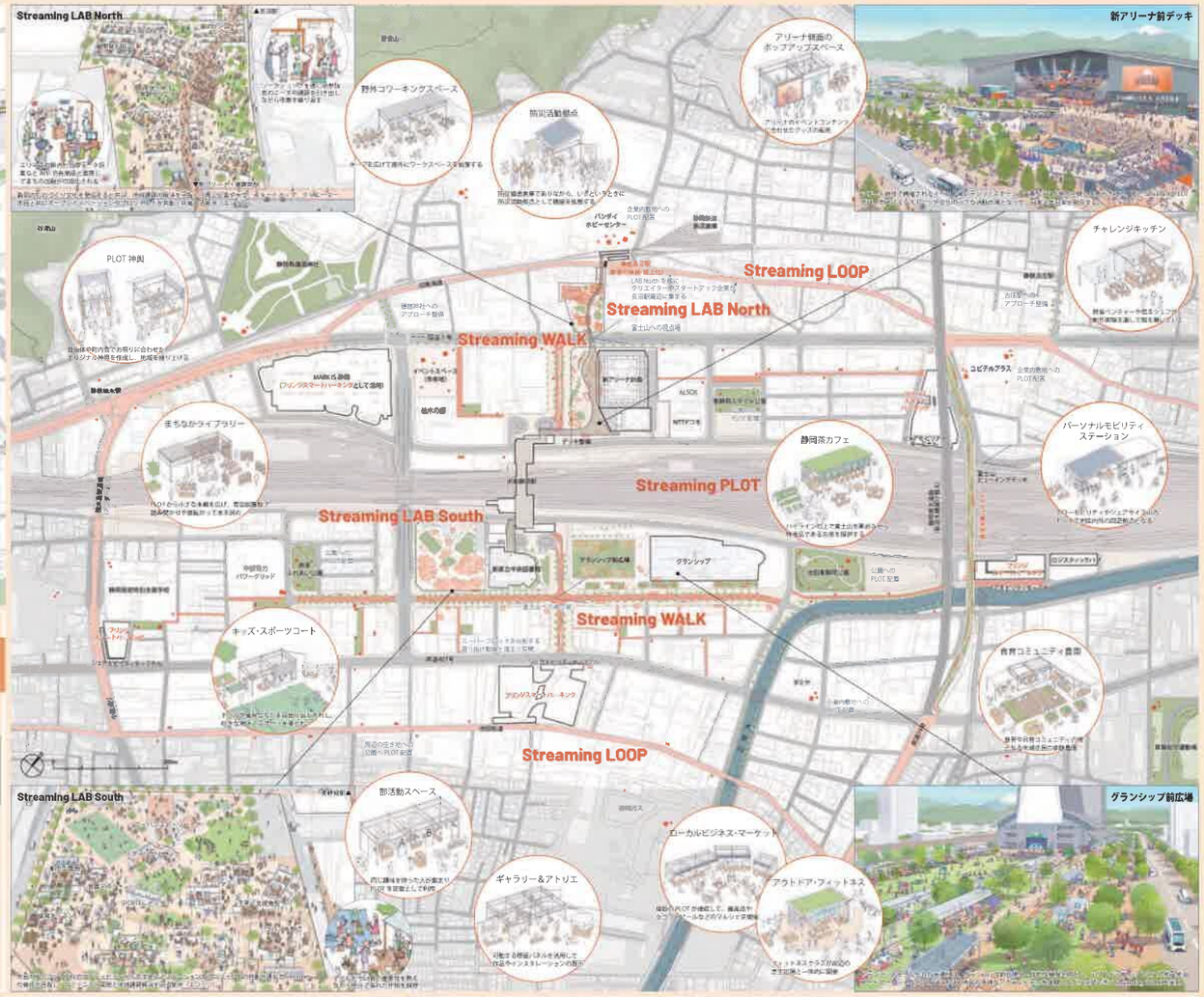
ミクスト・アクティビティ
まちなかで多様なコンテンツやアクティビティが重なり合う
↓
偶発的な出会い・触発・体験を誘出し、東静岡の QOL の向上

共創・共育を通じて共感を生むコミュニティ
誰もがアクティビティの発信者や表現者＝Streamer に
↓
共創・共育への関わりの中で地域エンゲージメントが醸成

チャレンジとイノベーションの循環
まち全体を実証実験のフィールドとして許容
↓
チャレンジやイノベーションが連鎖する新しい流れを生み出す

LIFE Streaming で提案する、具体的な 4 つのまちづくりの仕掛け

1. 公共空間のリ・デザイン
   アクティビティの起点となる小さな場 Streaming PLOT
2. 道路空間と交通体系のリ・デザイン
   歩行者とモビリティが共存する体験回遊 Streaming WALK
3. 地域価値創出のリ・デザイン
   共創・共育のまちづくりのエンジンとなる Streaming LAB
4. 地域マネジメントのリ・デザイン
   持続的な共創・共育を実現する Streaming PLATFORM



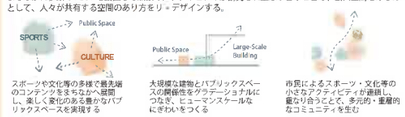
03　市民主体のまちづくりを促す具体的な仕掛け

1. Streaming PLOT
アクティビティの起点となる小さな場

市民が主役となる多様なアクティビティの拠点（PLOT）として、まち全体ににぎわいの連続性や流れを生み、ライフスタイルの筋書き（PLOT）を共創・共育する仕掛け。

■ Streaming PLOT がもたらす効果

まちなかに多数の PLOT を設置して無数のアクティビティが誘発され豊かな行合うことで、公共空間をはじめとして、人々が共有する空間のあり方をリ・デザインする。



スポーツや文化等の多様な要素が複合的コンテンツをまちなかへ展開し、楽しく変化のある豊かなパブリックスペースを実現する

大規模な建物とパブリックスペースの関係性をクラテーションなどつなぐ、ヒューマンスケールにぎわいをつくる

市民によるスポーツ・文化等の小さなアクティビティが連鎖し、豊かな時間・重層的なコミュニティを生む

■ Streaming PLOT の 3 つの特徴

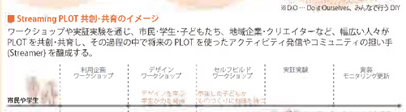
可変性
市民のアイデアやニーズ、周辺環境に応じて自由にカスタマイズでき、フレキシブルに変化できる

更新性
時代やニーズの変化に応じて家具や設備の機能を追加したり、移設・増築することでアップデートできる

セルフビルド
市民や学生たちが自身で考えたり、DIO で簡単に組み立てることができ、楽しみながら作り育てることができる
※DIO ： Do it Ourselves、みんなでやろう DIY

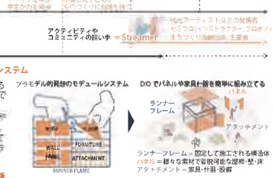
■ Streaming PLOT 共創・共育のイメージ

ワークショップや実証実験を通じ、市民・学生・子どもたち、地域企業・クリエイターなど、幅広い人々が PLOT を共創・共育し、その過程の中で徐々に PLOT を使ったアクティビティ発信やコミュニティの担い手（Streamer）を醸成する。



■ Streaming PLOT のモジュールシステム

静岡が世界に誇る産業の一つであるプラモデル的発想で、誰もが DIO で簡単に組み立て加工・解体・カスタマイズ・アタッチメント追加による機能更新や拡張がしやすいモジュールシステム、フレームやパネルの部材は、軽くて安全、かつ強靭に優しい「再生プラスチック素材」を各種開発する。



■ Streaming PLOT の拡がりと連携

PLOT の導入は公共空間などにおける実証実験として「点」から始まり、段階的に実装して「点」が集積し「線」となる。将来的に企業の敷地内や住宅地内の空き地・空き家など周辺エリアへも PLOT が展開し、「面」的なまちづくりへと波及する。多様な PLOT が連携することでまちに回遊の流れが生まれ、東静岡の QOL の向上につながる。

2. Streaming WALK
歩行者とモビリティが共存する体験回遊

将来モビリティの変化に合わせた交通・道路体系の再編によってウォーカブルな環境を整備するとともに、コンテンツと変化にあふれた回遊空間を生み、領域的な出会い・学習を促す仕掛け。

■ 交通体系の再編 ―フリンジスマートパーキング（FSP）―

広域から訪れる自家用車や物流車輌はまちの外縁部に設置した FSP に接続し、コミュニティバスや小型のシェアモビリティへの乗り換えや配送ドローンへシフトすることで、地区内の自動車流入抑制・交通渋滞の緩和を図る。

■ 道路空間の再編

道路空間の再配分及びトランジットモール化を行い、選択をまたがって PLOT を設置したり、イベント等の利活用ができる空間をつくる。様々なコンテンツを体験しながら楽しく快適に歩けるウォーカブルな回遊空間として、地上・デッキ上などの動線が分断することなく接続する。

静鉄駅
ターミナル
トランジットモール
バーチャルモール
ライブ
ストリート
スクエア
ストリート
ストリート
ストリート

ビジョン

提案する視点：①②③④

私たちが提案するビジョンは、
「**住みやすいまち**、**人のまち**、**持続可能なまち**、そして**スマートシティ**」
という4本柱で構成しています。

今日、私たちは人口減少、経済の停滞、気候変動の影響、急速な技術変化などに直面しています。これらの課題を乗り越えるために、関係者全員の声を迎え入れた、革新的かつ持続可能な解決方法を決めていく勢いのあるプロセスこそ、本市が理想的な街となるための成功の原動力となるはずです。

新幹線駅の利便性を活かし、東京や地方からの観光客を惹きつけ、地域の活性化と持続可能な未来を共に築きます。

住みやすいまち…
都市機能と地域の機能がバランスよく組み合わされ、オープンスペースに明確な階層性を持たせた、交通の便が良いコンパクトなまち。

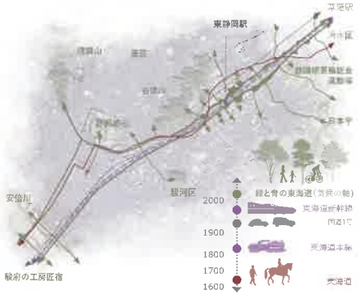
人のまち…
さまざまな年齢層の人々にとって安心・安全で、遊び心のあるまち。

持続可能なまち…
質の高い緑と水の空間を備えた気候の変化に強い循環型のまち。

スマートシティ…
最新のテクノロジーに対応し、意図的に設計された適応性の高いまち。

静岡市の副都心である東静岡周辺は、大きな変革の可能性を秘めており、模範都市となる絶好の機会を得ています。今回提案する原則は、東静岡のみならず、静岡市全体にプラスの波及効果を生み出すでしょう。今こそ大変革に向けて動き出す時です。

コンセプト



1

「緑と水の東海道」を展開する

6つのコンセプト

①時代は江戸　―東海道は、江戸と京都を行き来するために造られ、人と荷車が行き交っていました。輸送手段の発達に合わせて、鉄道、自動車、新幹線へと時代とともに進化を遂げてきました。そして今、歩行者や自転車にとって快適・安全でわかりやすい通行のために、人間的なスケールに戻るべき時が来たと考えています。
緑化や雨水浸透性の高い素材を使用することにより、循環型経済を取り入れ、洪水や暑さを克服した、心地よく歩きたくなる道に変わります。緑と水、スポーツ・レクリエーション、気候に配慮した街路構造―これらが揃った「緑と水の自然を感じる旧東海道」を展開することにより、人々がここで暮らしたい、ここに戻りたい、と思える、住みやすい緑豊かなまちになります。

2

インフラの上をまたぐ

②東静岡の地に、高さ10mの触手がアリーナ、図書館、MARK IS、劇場、バンダイ、高架、長沼駅、GRANSHIPなどの近隣の主要施設に伸び、本体である東静岡駅とを結んで、道路や鉄道などのインフラの上をまたぐことを可能にします。接続性が鍵となり、このペデストリアンデッキと地上の複層で構成されるテラスや遊び場、コミュニティガーデンなどのオープンスペースが、エリアをより生き生きとさせてくれます。

3

鉄道をつつみ込む

③東静岡駅のポテンシャルを活かして鉄道を包み込み、地域・駅・都市それぞれの生活レベルで、24時間365日活気に満ちた賑わいの拠点となることを目指します。住居と商業・教育・文化など、様々な機能を階層的に組み合わせ、地域を高密度化することにより、文化・スポーツの拠点を完成させます。この「ハイブリット化」によって、空間（駐車場）や資源（エネルギー生産）を共有できるようになり、双方にメリットのある状況が生まれます。地域コミュニティが多くの魅力と共存することで、成長していくことができるのです。

4

メインストリートの景観を統一する

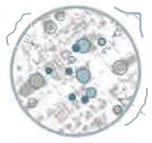
④東海道や南幹線のようなメインストリートの景観を統一します。アクティブな1階のある建物と視覚的に重要なアリーナや図書館などのラインを明確にすることで、バラバラした街並みを整えます。

5

人間的なスケールを取り入れる

⑤大規模なインフラを考える中で先を見失わないよう、子どもや若者目線の人間的なスケールを取り入れることが重要となります。大きな街区を、地域のための心地よい空間と快適なつながりで細分化すれば、子どもにも、私たち一人ひとりにとっても、安全で魅力的なまちになります。

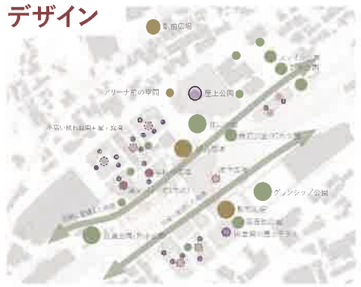
6



外せない要素を明確にする

⑥見る/見られるという関係を意識して、このエリアにとって外せない要素を明確にします。高く目立つ建物と頂をみないデザインは、このエリア内での方向感覚を助け、この場所が東静岡だと意識づけることができます。また、重要な眺望を残せるように意識して建物を配置することで、谷津山・日本平・富士山などのまわりの風景を見通せます。これが他の5つのコンセプトと合わさることで、東静岡のアイデンティティを高めることができるのです。

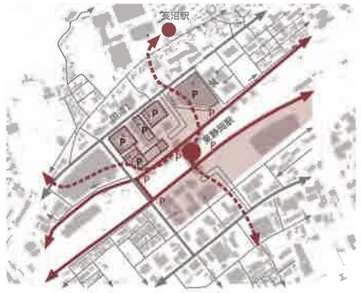
デザイン



個性的な空間

オープンスペースは、公共的なものからプライベートなものまで、その場所に秘められた可能性を最大限に活用することで、それぞれを個性的な空間にすることができます。
例えば、人気のある北口の広場やグランシップ前の広場を維持しつつ、新しく鉄道公園、水路につながる貯水公園、住宅街区の間に居心地のよい通りや小さな広場などを作ることが可能です。

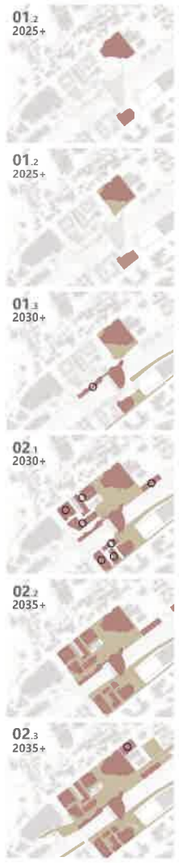
- 公共空間 - 主に舗物
- 公共空間 - 主に緑
- 半公共的空間
- 私的な空間
- 小高い空間
- 屋根上の空間



ウォーカブルシティ

外部から出入りできるプラットフォームに駐車場を集中して配置すると、駅の周囲や街区間のスペースを車や不要な交通から解放することができます。配置と緑色車両のみを許可することで、歩行者と自転車に多くのスペースを確保することができます。これにより、まちの中に緑の空間を増やすことができます。

- 自転車通行路
- 高架された通路
- 屋根付き通路
- 歩行者ゾーン（緊急車両/配達のみ）
- P 駐輪場
- 道路
- P 駐車場
- 駐車場入口



プロセス

開発の成功のためには、固定/規制すべきものと、変化に適応するために柔軟にしておくものをそれぞれ決めておくことが重要です。
そのためには、利害関係者（市・JR・不動産所有者・運営者・地域住民など）との対話（参加・共創）が不可欠です。

固定/規制すべきものとしては①広場や公園といった複層からなるオープンスペースの明確な階層性、②東静岡の顔性を表す主要な建物とそれぞれの役割③主要な道路から接続したプラットフォームへの駐車、歩行者専用の内側の道路などの主要なモビリティの骨格が挙げられます。

それ以外の建物の一部やオープンスペース、敷地などを柔軟にしておくことで、さまざまな計画が調整可能となり、区画を独立して整備できます。

開発のステップ

①図書館・アリーナ・公共空間、駅とその周辺エリアの変革が東静岡の開発を開花する鍵となり、「緑と青の東海道」は、既存の植生が適切に維持され、拡大されることで可能となります。

②固定/規制すべきもののルールに沿って、空き地や大きな店舗用地の近くの街区に着手します。

③北側と南側の区画は、個人の土地所有者が多いため、意識的にエリア分析と対話を行い、ゾーニングとオープンスペースの構造を時間をかけて固めていきます。

真に模範的な都市を実現するためには、公民連携でチャレンジし、関連する法律や計画上の制限を改正していく必要があります。

- 建物のゾーン
- オープンスペース
- 準備ができていれば、プロジェクトは独立して始めることができます。

03
2050+

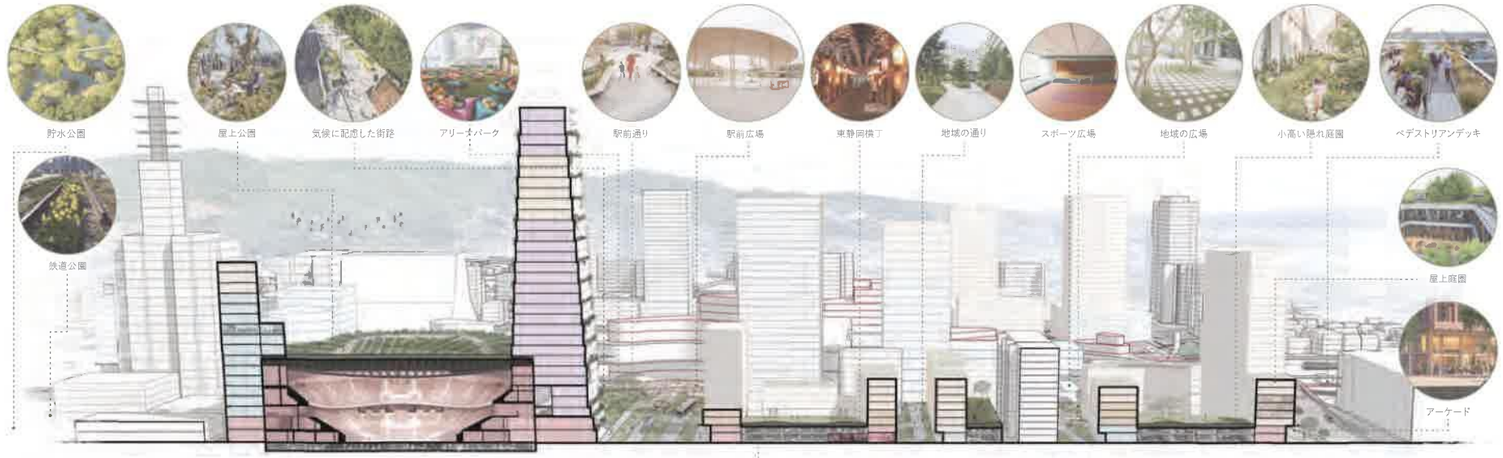
居住地域

新しい東静岡の居住環境は、駅の南北に新たに**5,500**人の住民を創出します。
この提案は、以下の面積で構成しています。

アリーナ	25.000 m²
図書館	20.000 m²
他の文化的機能	30.000 m²
住居	135.000 m²
商業・サービス・レストランなど	26.000 m²
健康・福祉的機能	15.000 m²
（クリニック、保育園、老人ホームなど）	
教育（インターナショナルスクール）	10.000 m²
オフィスとこれに類する機能	65.000 m²
スポーツ・レクリエーション、ウェルネス	14.000 m²
ホテル・宿泊施設	25.000 m²
	＝365.000 m²

この面積と機能は、市の将来的な要件に合わせて調整が可能です。

- 住居, 学生寮 など
- 健康, 介護サービス など
- 未要な建物（アリーナ, 図書館, 文化施設など）
- 商業・サービス・レストラン など
- 交通
- オフィス, ベンチャー企業, クリエイティブ産業 など
- 教育
- スポーツ, レクリエーション, ウェルネス など
- ホテル



04_東海道からホテルを併設したアリーナを望む

03_地域の公園

東静岡

「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想都市

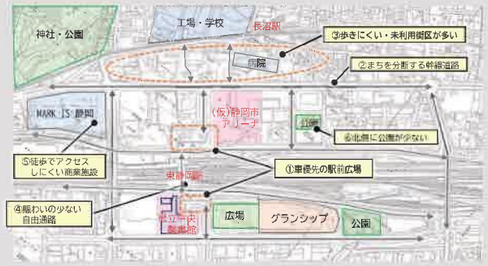
— a foudation stone of an examplary city —

01_アリーナの屋上公園から東静岡駅を望む

02_ペデストリアンデッキから気候に配慮した街路を望む

CONNECT PARTS CITY "HIGASHI SHIZUOKA"

ASSIGNMENT



①車優先の駅前広場

バスも少なく乗車用に見合わないほど広すぎる

②まちを分断する幹線道路

国道、駅前ロータリー導入路など大きな道路が歩行者の移動感覚を阻害している

③歩きにくい・未利用街区が多い

細かい街区割り、不整形の街区が多く歩きにくい、空地もまばらに存在

④賑わいの少ない自由通路

十分過ぎる幅があるが、滞留スペースがなく閉鎖としている

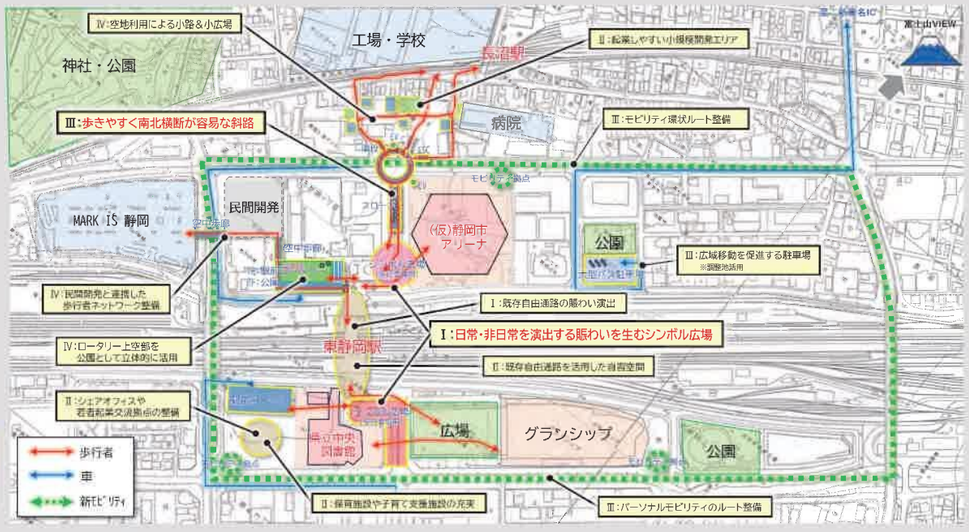
⑤徒歩でアクセスしにくい商業施設

歩行者は幹線道路を越えないとアクセスできないため駅近傍の立地を活かしきれていない

⑥北側に公園が少ない

元は広い公園があったがアリーナ建設により廃止。代替となる憩い空間が必要

PROPOSAL DETAILS



POINT Ⅰ　文化・スポーツ

✧駅前に歩行者中心のシンボル広場を整備し、
日常・非日常の様々なシーンにおいて賑わいを創出します

①：南北の駅前ロータリーを移転し歩行者専用の広場へ改修
（樹木、噴水等を配置しシンボル性を演出、ベンチ、緑れるデッキ等を多く配置し滞留可能な空間とする）

◎活用イメージ
《日常》
・近所の方々の散歩コース途中の休憩スポット、天気のいい日は読書などの憩い空間として活用
《非日常》
・北側）アリーナでのイベント開催時、多くの人々が安全に移動できる空間として十分なスペースを確保
・南側）図書館、グランシップと連携した文化交流イベント等における屋外展示空間として活用

（上野公園口駅舎・駅前広場整備）
駅舎の位置を上野公園の軸線上に移設。あわせて駅舎前道路のロータリーを石い車道進絡の歩行者広場を創出。

（北本駅 駅前広場整備）
従来のロータリー主体の駅前広場を改修し、様々なイベントの開催が可能な事務的広場とシェルター整備により空間を創出。

✧東静岡駅の自由通路空間を活用し、
賑わい創出、地域情報の発信、地元企業との連携を図ります

①：滞留空間、イベント空間としての機能を付加し賑わい空間へと改修
・イベント開催時に必要な有効幅員は確保のうえ交差となる空間にベンチ等を配置
・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用
・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのモニュメント等を展示
・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

（仙台駅西口通路）
2015年に拡幅、改修整備された際にモニュメントツリーやベンチ等を自由通路内に配置

（いなげや発信基地パテラス）
メカニックデザイナーの出身地である福島長沼駅隣接の高家天に1/5スケールのガンダムを設置

②：地域情報の発信、広告展開等を可能とし地域活性化を促進
・自由通路＝通路であり広告展開に制約があるが、屋外広告物条例を改正し公益上の理由がある際には適用を除外し広告展開を可能にする
・掲示板、バナー、デジタルサイネージ等を配置しイベント、地域情報の発信を行う

（新宿駅自由通路）
幅約、約もの大画面で特色ある広告展開が可能

（品川駅自由通路）
通路に沿って画面が連続的に配置されており、同じコンテンツを同時に流すことで印象的な効果

POINT Ⅱ　若者・子ども

✧子育てしやすい街をつくり、子育て世代の移住を促進します

①：南側の未利用街区エリアに、
保育施設・子育て支援施設・シェアオフィスの複合施設を新設

◎メリット
《保育施設》
・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の中でのびのび遊べる（例：森のようちえん）
・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる
・駅前という立地条件により、首都圏や市街地に通勤する親も預けやすい
《子育て支援施設》
・子育て世代間の交流機会を創出し、新たなコミュニティを醸成できる
《シェアオフィス》
・情報の保育施設に子どもを預け、安心した環境でリモートワークができる
・駅前という好立地で、違う駅からも訪れやすい（静岡駅から1駅2分）

（シェアオフィスイメージ）

（保育イメージ）

②：駅前街区に広い歩行者通路や歩行者専用広場等を整備することで、子どもと安心して歩ける街をつくる

✧学生が集いやすい空間を創出し、街に賑わいを創出します

①：既存自由通路を自習空間として活用
②：南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催
（地域の学校等と連携）

（秋田駅特合室）
従来の他の広さに拡張したことで観光客以外の地元学生などの利用も増加

（イメージ）
学生や地域の住民によるイベント等を開催できる広場。通常時は住民の憩いの場となるよう計画する

✧若者が「やってみたい」を挑戦できる場所・機会を提供し、
街に活気を呼び込みます

①：新設するシェアオフィスを活用し、若者起業家交流拠点をつくる
②：北側の小規模開発エリアで、居住空間併設・小規模でありながら家賃を抑えた「簡易出店できる場所」を提供
③：南北のシンボル広場でキッチンカーや簡易テントによる出店を随時募集

（下北沢ボーナストラック）
あえて小規模な店舗区画にすることで、資料を下げチャレンジ機会を提供

（イメージ）
キッチンカーが入れるようにするなど、イベント時の使わり方を想定した広場計画を検討

POINT Ⅲ　都市交通

✧東静岡駅と長沼駅の歩行者動線強化のため、
歩車分離と国道を渡る緑の斜路を整備します

①：歩行者専用化した国道を渡るアプローチ
駅前のシンボル広場を起点とし、緩やかにつながる斜路により国道１号線を越えることができる。目の前にはオクシズの山々が広がる。
東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぎ、歩行者の移動を促す。

（国道横断斜路イメージ）

（断面イメージ）

4車線道路であった範囲を20m幅の斜路として計画。斜路は、立体道路構造を活用し、下部の空間を有効利用する。

✧様々なモビリティを用いて
誰もが自由に移動できるネットワークを構築します

①：既存モビリティを有効活用した
南北エリアの環状ルート整備による回遊性の向上

（東静岡地区のまちづくりのイメージ図（募集要項より抜粋））

・駅周辺街区を環状線とし、バス・タクシーといった既存のモビリティが周遊することで街区内移動を促す
・駅近傍上のモビリティ拠点を設け、公共交通とのシームレスなつながり、ネットワークを構築する
・AIオンデマンドシステムを活用し、地区内を最適なルートで移動するモビリティサービスを提供
・高齢者も子連れ利用しやすく、乗り降り自由なサービスとする

〈事例〉オンデマンドモビリティ
「チョイソコ」（アイシン）

②：パーソナルモビリティを活用した自由な移動の整備により、
賑わいや新たな出会いの創出

・駅周辺の歩道空間を歩行者とモビリティ用で区分しパーソナルモビリティの利用を促す
・グランシップと図書館、商業施設と公園など、ついでに利用したり、徒歩移動に抵抗があった街区間の小移動を促す
・新たな場での賑わい、出会いの創出を促す

POINT Ⅳ　土地利用

✧小広場を小路でつなぎ、まち同士をゆるやかにつなぎます

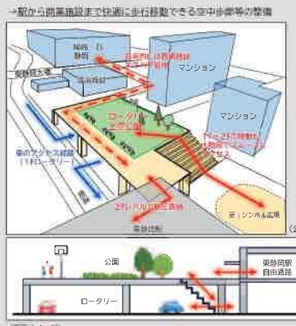
①：既存の空地を活用して小広場を整備し、小規模開発エリアをつくる
②：小広場を小路でつなぎ、東静岡・長沼間の連続性を生み出す

（空地利用イメージ：小広場エリアにおける検討事例）

（小広場事例　左：すき家高輪下駅前広場　右：下北沢南口広場）

✧駅前ロータリー上空に公園を整備し、憩いの場を創出します

①：北側駅前広場の車機能を隣地に移転し、上空部に公園等の憩い空間を整備
→アリーナ建設に伴いなくなる公園機能の代替として
②：東静岡駅自由通路レベルから駅と直結しアクセス性を向上させる
③：（希求的に）民間開発と連携して歩行者ネットワークを形成する
→駅から商業施設まで快適に歩行移動できる空中歩廊等の整備



（公園イメージ）

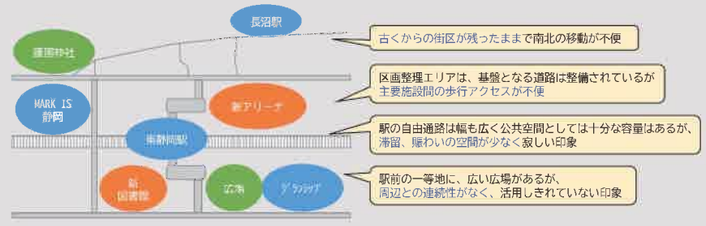
（断面イメージ）

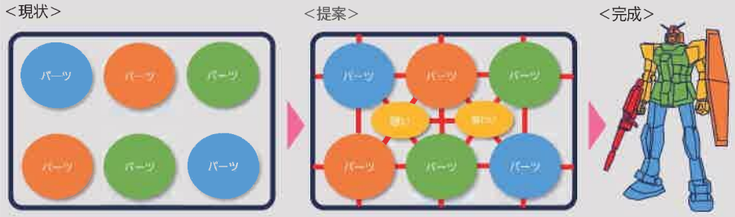
CONCEPT

東静岡地区は、土地区画整理事業、新駅・自由通路整備など、平成の約30年をかけて都市基盤の骨格が作り上げられてきましたが、この度のアリーナ計画や新県立図書館の整備を契機に社会構造の変化や時代のニーズを捉えた新たな街づくりが求められています。

今回、我々は「CONNECT PARTS CITY "HIGASHI SHIZUOKA"」とコンセプトを定めました。東静岡地区には、駅、グランシップ、新図書館（予定）、新アリーナ（予定）、商業施設といった様々な主要要素（＝parts）がありますが、幹線道路や旧街区に阻まれ、歩行者にとってはそれぞれがうまくつながっていない現状があると感じました。そこで、それぞれの主要要素（＝parts）を連続的、効果的につなぐ（＝connect）ことで、住みたくなる・訪れたくなる街にしたいと考えました。

またこのつなぐ（＝connect）というコンセプトは、物理的に要素間をつなぐだけでなく、賑わい等も創出することで、来街者と居住者をつなぐ、高齢者～若者～子供の世代間をつなぐ、歩きやすい・移動しやすい街とすることで周辺地域とネットワークがつながることも意図して設定しました。





（イメージ（静岡市内のプラモニュメント））

若者が住みたいまち、訪れたいまち、東静岡。

新たに賑わい、憩いの空間を創出し、それぞれのパーツ同士の歩行者ネットワークを強化することでより魅力的な街が完成する。全国のプラモデル出荷量の8割を誇る静岡市の特色を生かし、今回のまちづくりコンセプトを設定しました。

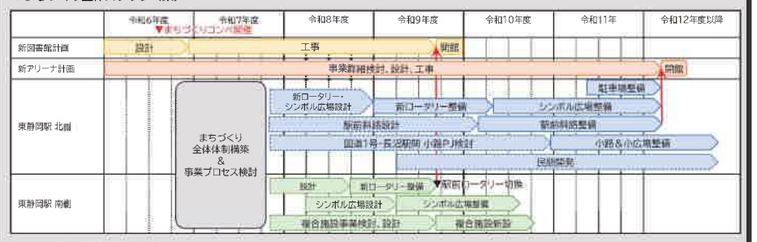
人口減少や高齢化、若者の流出など、地方都市はかつてない大きな課題に直面していますが、近年、これまでの発想に捉われない魅力的な公共空間が全国に誕生してきており、地域の活性化に寄与しています。これらの事例に共通的なキーワードとして「車から人への転換」「賑わい・交流を引き出す場所づくり」「歩きたくなる空間整備」などが挙げられますが、今回の提案でもそれらの要素を数多く盛り込んだ内容としています。

「若者が集い、住まい、新技術やトレンドの発信拠点となる」

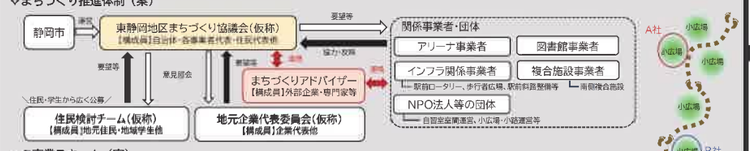
そんな東静岡のまちの将来像を描きました。

PROCESS & SCHEME

✧まちづくり全体ステップ（案）



✧まちづくり推進体制（案）



（小路・小広場イメージ）
民地を一部供出し小広場を整備（企業ライブ）
行政道小路を段階的に整備

✧各事業スキーム（案）

事業	財源・活用制度	維持管理
シンボル広場	国費）社会資本整備総合交付金「都市・地域交通戦略推進事業」	自治体・事業者
自由通路の賑わい創出	屋外広告物条例の改正等	自治体・事業者
自由通路の自習空間	都市計画変更もしくは道路内建築許可	民間団体に公募

事業	財源・活用制度	維持管理
東静岡・長沼間斜路	国費）社会資本整備総合交付金「まちなかウォーカブル推進事業」	自治体
ロータリー移転・上空公園	立体都市計画制度	自治体
長沼周辺の小広場	地域企業タイアップ（ネーミングライツ）	民間団体に公募

「かいゆう」のまち

Ⅰ. 立地特性を活かすための「回遊」促進

・日本有数の魅力的な「まち（駿府城周辺等）」「うみ（駿河湾・清水港）」「やま（日本平 久能山・オクシズ）」の中間地点に位置し、鉄道や道路網により市内だけでなく全国からもアクセスし易い立地優位性を十分に活かすため、空間的な分断の解消や交通機能の拡充により、多様な資源間の回遊性を高めることで、より多くの人々を惹きつける。

Ⅱ. 機能集積を活かすための「界融」促進

・文化・芸術、スポーツ、学術をはじめとした多様な機能が集積している強みを活かすため、現在、自己完結性の高い「施設型（ハコ型）」の機能を、各々の物理的・機能的な境界を融かし、「開放型（マチ型）」へと転換することで、互いの機能が響き合い、新たな魅力・価値が創出されるようなまちづくりを展開する。

Ⅲ. 人口構成を活かすための「交い結う」促進

・若年層の人口割合が多い現状を活かし、かつ、全国的な少子高齢化の中でも、その活力を継続的に維持していくため、若者の挑戦を支えるような受皿や仕組みづくりを行い"若者の根付き"を促すとともに、それら若者の活躍をテコにして、子どもからシニアまで多様な世代が交流し、新たな縁が結ばれていくようなまちづくりを行う。

回遊促進

提案1-1

回遊デッキの創出（多機能型デッキ）

【視点番号①③④】

- デッキ上部（交通＋公園）
  - → ❶ 交通機能：歩行者通路、グリーンスローモビリティ走路
  - → ❷ 公園機能：植栽帯、休憩空間、カフェ（富士見茶屋等）
- デッキ下部（遊び＋交流）
  - → ❸ 遊び機能：デッキの躯体を利用したアスレチック
  - → ❹ 交流機能：デッキを屋根とした全天候型シビックプラザ
- 非日常時 非常時
  - → ❺ 非日常時：イベント空間（主に、上記❷❹の空間を利用）
  - → ❻ 非 常 時：一時避難地（屋根のある上記❹の空間を利用）

提案1-2

グリーンモビリティネットワークの創出

【視点番号③】

- 駅前資源間
  - → ❶ 回遊デッキ上を走行：グリーンスローモビリティ導入
- 地区資源間
  - → ❷ 地区外周道路を走行：コミュニティバス導入（自動運転）
- 地域拠点間
  - → ❸ 駅と各拠点間を走行：既存の路線バス、シャトルバス
- 結節機能
  - → ❹ 円滑な選択＋乗換え：マルチモビリティステーション設置

界融促進

提案2

マチ型機能への転換（ハコ型からの界融）（デッキはまちの回廊）

【視点番号①②④】

- まち全体が新たな宿場
  - → ❶ 観光地からの良好なアクセスや、温浴施設の立地を活かし、敷地A，Cに宿泊施設を、敷地Dに仲見世型の個店街を導入
- まち全体がキャンパス（文教施設）
  - → ❷ 大学・専門学校の集積や、図書館、グランシップの立地を活かし、敷地Bの一角にキャンパスビレッジ（合同学生寮＋サロン）を、敷地Dに複数の大学や技術系企業の合同サテライトラボを導入
- まち全体が健康増進施設
  - → ❸ 計画されているアリーナや、民間のフィットネスジム、複数の医療施設の立地を活かし、デッキ上にウォーキング・ジョギングコースを、デッキ下にアスレチックコースを導入また、調整池を、平常時はアーバンスポーツパークや多目的コートとして有効利用

既存（計画）			誘致機能
観光地へのアクセス	温浴施設	宿泊施設	個店街（土産物）
大学専門学校	図書館グランシップ	キャンパスビレッジ	合同サテライトラボ等
医療施設フィットネス	多目的アリーナ	ウォーキング・ジョギングコース	アーバンスポーツパーク等

交い結う促進

提案3-1

多世代共創の受皿＋仕組みづくり

【視点番号①②④】

- 多世代共創の受皿
  - → ❶ 学　生：キャンパスビレッジ（合同学生寮+交流サロン）（敷地B）
  - → ❷ 若年層：子育て支援型住宅、二拠点居住物件、ソーシャルアパートメント（敷地B，E※）
  - → ❸ シニア：駅前住替え住宅（敷地E※）（※：敷地Eでの住宅整備には地区計画の変更が必要）
- 多世代共創の仕組み
  - → ❹ 学生は、子どもに学習・語学等を教えることを条件に、低廉な賃料で❶に入居が可能
  - → ❺ シニアは、昔遊び教室や、子どもの一時預かりサービスを提供（組織化を公共が支援）
  - → ❻ 住替え前住宅の一部を公共が借り上げ、エリマネ活動への参画を条件に若者に低廉に賃貸

提案3-2

チャレンジ誘発型の受皿＋仕組みづくり

【視点番号①②④】

- チャレンジ誘発の受皿
  - → ❶ 敷地D屋上に導入する仲見世型個店街の一部に、チャレンジショップを確保
  - → ❷ デッキ上の一部を、ヘブンアーティスト（選定基準を満たしたアーティスト）に開放
  - → ❸ デッキ下の一部に、市民・学生などが出店可能な、チャレンジブースを確保
- チャレンジ誘発の仕組み
  - → ❹ チャレンジショップ・チャレンジブースへの出店者は、回遊デッキの日常維持管理や地域活性化イベントへの参画を条件に、低廉な賃料で出店が可能
  - → ❺ また、広報面で、回遊デッキ接続団体（県・市・鉄道事業者他）の協力を受けられる

敷地A
・多目的アリーナ＋広場
・ホテル＋展望ラウンジ
敷地B
・キャンパスビレッジ
・子育て支援型住宅
・学生×子ども交流施設（学生が学習・語学を教える）
敷地C
・ホテル＋人の広場
敷地D
・屋上：仲見世型個店街（一部にチャレンジショップ）
・下階：合同サテライト等（ファブラボ、コワーク併設）
敷地E
・アリーナ＋住替え＋二拠点居住
・ソーシャルアパートメント
・広場（＋古代東海道遺構）
凡例
主な既存施設
文化教育施設
スポーツ施設
商業施設
温浴・宿泊施設
高層マンション
医療施設
ものづくり工場
提案箇所
主な提案敷地
計画・提案施設
回遊デッキ（クリスロルート）
コミュニティバスルート
既存路線バスルート
マルチモビリティステーション
県立科学技術高校
静岡駅
静岡市役所
静岡市民文化会館
静岡市立静岡高等学校
静岡大学
静岡県立大学
静岡県立静岡がんセンター
静岡市立病院
静岡市立清水病院
静岡市立清水病院
静岡市立清水

青春を育むまち

小さな活動を耕し、世代を超えて愛され、記憶に残りつづけるまち　東静岡

提案した視点番号
①②③④

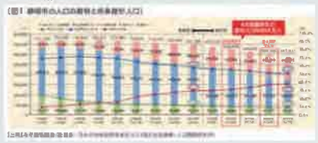
1｜東静岡のポテンシャルと課題

1.【若者・子ども＆文化・スポーツ】若者にとって魅力的なまち ＆ 草の根の活動の場やその活動を醸成する仕組みの必要性
市全体として人口が現象しており、特に大学進学に伴う若者の流出が目立つ。そのため、新たに整備予定のアリーナ等の拠点の効果を最大化し、若者がまちに留まることを選択できる環境（若者を中心とした楽しむ、挑戦する、活躍できる場）をつくりだす必要がある。また、大学コンソーシアムや文化関連施設が連携するムセイオン静岡等の既存の組織間連携はあるものの、草の根の活動の場やその活動を醸成する仕組みが十分に整っていない。

2.【都市交通】十分な交通結節点機能・南北動線（特に歩行者の南北動線）の必要性
多くの高校・大学が周辺に立地するが、静岡駅からのアクセスが中心であり、交通結節点として十分に機能できていない。また、鉄道や国道１号線等、利便性の高い交通が東西に通っているが、巨大な緩衝空間によりまちが断絶されていることから、南北動線、特に歩行者の南北動線が十分に整備されていない。

3.【土地利用】アリーナ等の賑わいを波及するような公共空間の整備 ＆ 次世代の交通体系を踏まえたロードサイド空間へ更新する必要性
新たにアリーナ等の人の集まる拠点の整備が進行しているものの、駅周辺は駐車場や空き地が多く、その効果を最大化する公共空間（歩行者のための空間等）が十分に整備されていない。また、各交通モードの将来動向を整理した際の資料によれば、自動車は小型バスや自動運転等の次世代交通へ推移することが想定されており、ロードサイド店舗は、１店舗１駐車場の業態からの変化が求められる。このことから、駅南北のロードサイド店舗は将来の交通動向に備えに対応する必要がある。

■人口減少（出典：第四次静岡市総合計画）



■駅周辺は多数の教育施設が立地するが、歩行者動線の整備が不足

■駅周辺は駐車場や空き地が多く立地しており、歩きたくなる＆滞留する空間できる空間が少ない

2｜コンセプトと４つの提案　「青春を育むまち」

若者の課題 と 青春の重要性

現代は情報過多時代と言われ、ソーシャルメディアの普及によって個人が入手可能な情報量は多い。しかし現代の若者にとって、メディアの情報のみでは、明確に自分のやりたいことを実現する道筋をみることは難しい。それは、リアルな社会との接続機会や体験を通じた成長によって少しずつみえるものである。

我々は、その解決手法の１つが「青春」であり、まちに「青春」が存在し、見える・体験できる・挑戦できることが重要と考える。

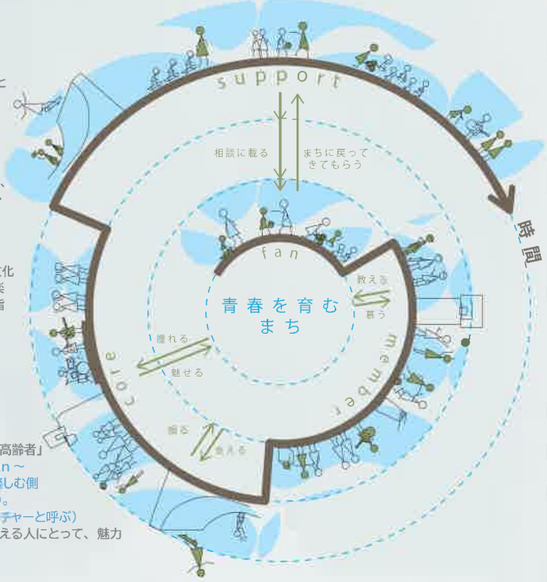
加えて、「青春」は若者だけで成り立つものではなく、友人や頼れる先輩、信頼できる両親や祖父母等、多くの支えが存在して初めて成り立つものと考える。

まちの将来像：青春を育むまち

以上から本提案では、まちの新たな特徴となる文化やスポーツを通して、若者が周囲の支えのもと、楽しみ、挑戦し、活躍する「青春」を育むまちを目指すことを提案する。

【青春を育むまちの要素】
- 自己実現の道筋がみえるまち
- 社会との接続機会にあふれるまち
- 体験を通じた成長を支えるまち

この要素を実現するため、
1. まちに住む人が「子ども～学生～社会人～親・高齢者」と時間を経るなかで、青春との関わり方も「fan ～ menber ～ core ～ support」と変化し、楽しむ側から支える側へと変化する流れをつくる（右図）。
2. その流れを支える基盤（青春のインフラストラクチャーと呼ぶ）の整備に投資することにより、若者や若者を支える人にとって、魅力的なまちの実現を目指す。



提案①：青春のインフラストラクチャー

青春のインフラストラクチャーによる場とその活動イメージは、大きく３つの階層に分けられる。第一層は、アリーナやグランシップ等の「多くの人の前で活動する場」であり、活動者（core）が「最も大きなハレの場」として利用する。第二層は、広場等の「少し大きな人前で活動する場」であり、活動者（member）が大会等の「ハレの場」として利用する。

第三層は、まちかど広場等の「小さな人前に出ない活動の場」であり、活動者（fan）が日常の練習等の「ケの場」として利用する。

また、こうした小さな活動～大きな活動を支えるソフト面のインフラストラクチャーとして、地域主体の組成及び青春インフラの管理・運営を行う他、教育機関や活動者、市や民間企業、地域住民とのネットワークを構築による協力・連携を図る。

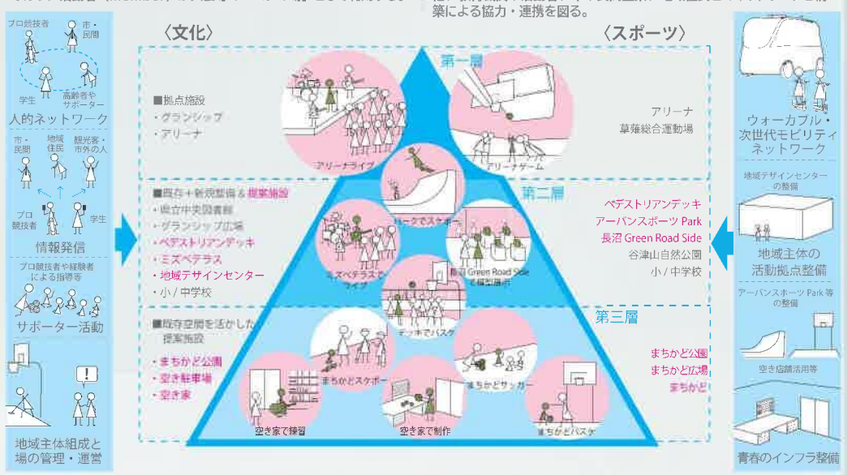
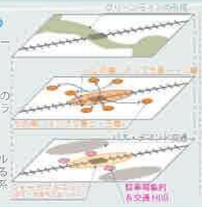


図　インフラの階層と活動イメージ

提案②：人のための駅前空間を創出する

1. 駅前を居心地のよいグリーンな空間とし、谷津山公園から日本平霊園へと続くグリーンラインを形成する
2. 駅前を「青春のハレの場」とし、青春のインフラストラクチャー（第一層・第二層）を点在させる（国道以北の長沼エリア及び池田街道以南を「青春のケの場」とする）
3. ロードサイドから駅南拠点及び駅までの交通ネットワークを再編する（駐車場集約＆既存の交通広場を廃止し、駐車場を交通 HUB することで、駅前にウォーカブルエリアを創出）



提案③：青春の活動を醸成する拠点をつくる

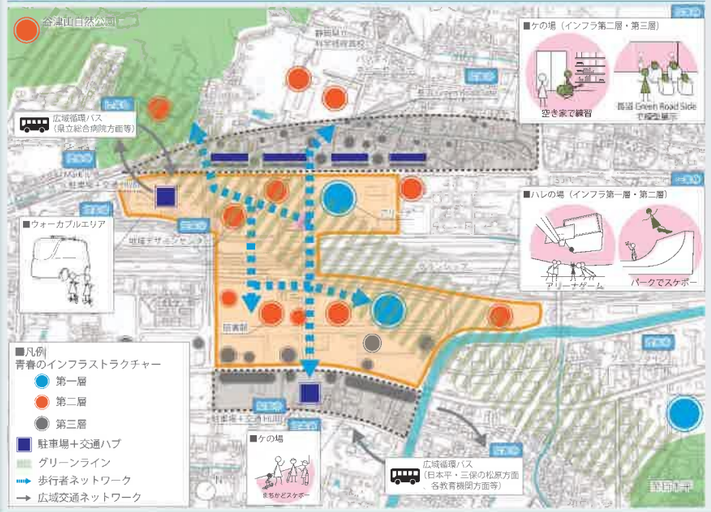
fan がつくる小さな活動から member・core がつくる大きな活動を醸成するため、地域主体の拠点となる「地域デザインセンター」を整備する。

地域デザインセンターでは、学生が主体となり、青春のインフラストラクチャーの管理・運営を行う他、地域が抱える課題に対してアクションを起こす拠点とする。また、アクションの企画・提案に際しては、自治体の他、民間事業者（アリーナ事業者等）、地域関係者等の地域パートナーと地域の課題に取り組む。

提案④：人のためのロードサイドへ更新する

将来的における交通体系の変化（自動車→小型バスや自動運転等）を踏まえ、
- 駐車場及びロードサイド店舗を縮小集約する
- 施設は１階に駐車場、２階に既存のロードサイド店舗や青春インフラストラクチャー（第二層・第三層）を配置する
- 創出された空き地は、ロードサイド店舗の事業者等が人の滞留の場として活用し、長時間過ごすことによる収益増を目指す

3｜マスタープラン



4｜事業スキーム

- 学生や若者、民間事業者、市の3者で「地域デザインセンター」を設立し、エリアマネジメントを行う。
- 駐車場料金や、キッチンカー、イベント等の使用料を原資として、広場やデッキの維持管理、空き地の賃借、イベント実施、ニューモビリティの維持管理運営（地域の交通事業者と協力）などの活動を広げる。
- 地域住民とのイベントの共創や、ファニチャなど景観デザインを共に検討し、学生や若者がイニシアチブを持ってまちづくりを推進する。
- ペデストリアンデッキはアリーナ運営者やホテル事業者等が整備費を一部負担し、静岡市の負担を最小限とする。

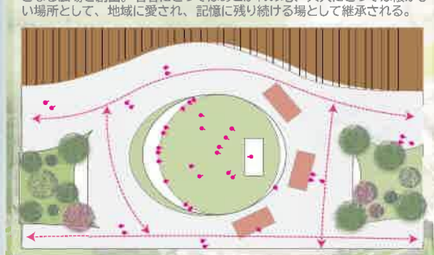
5｜スケジュール

- 2050年の整備、運営体制構築完了を目標に、ハード・ソフト面の取り組みを段階的に進める。
- 初期は既存施設や図書館、空き地等を有効活用し、まちに若者を増やす。

青春が育まれる未来の東静岡

A ハレの舞台としてみんなが憧れ愛される広場

ペデストリアンデッキの一等地には、文化的活動やスポーツのハレの舞台となる広場を創出。若者にとってはあこがれの地、大人にとっては懐かしい場所として、地域に愛され、記憶に残り続ける場として継承される。



B ウォーカブルで居心地の良い長沼 Green Road Side

国道１号線沿いは、機能を集積させて新たな建物（1F: 駐車場、2F: レンタルスタジオ・店舗、3F: 屋上庭園）とペデストリアンデッキを接続させることで、駅前から長沼駅までのウォーカブルな空間と居心地の良い新たなロードサイドの新たな風景を生み出す。

C 都市の隙間に生まれる青春を育むケの空間

地域デザインセンターが、空家・空地の買収を行い、昔の建物の様相を残したリノベーション等を行うことで、都市の隙間に、若者でも大人でも気兼ねなく使うことができ、仲間と青春を謳歌できる日常のケの空間が生まれる。

運営も地域デザインセンターが担うことで、新たなコミュニティのつながりや実験的なアクションが生まれる。

D リズミカルな空間の中でハレとケが介在する青春空間

新しい図書館の階層的な連続に合わせ、デッキ・階段空間にも連続するみどりと居心地のよいたまり場を創出。広場は、大道芸や模型イベント等のハレの日の活動が生まれるような大きな芝生と重層的なファニチャを設置。デッキ下の空間は１人または少人数で練習でき、青春を育むケの活動が生まれる。

E 自由な活動を享受する居心地の良いストリート

新たな交通ネットワークによって生まれる歩行者空間は、可変性のあるストリートファニチャを活用し、まちなかスケートボードやカフェなど、誰もが自由に使える居心地の良いストリート空間がうまれる。

F グリーンインフラを活用した気持ちの良いミズベテラス

大谷川沿いにある調整池は、グリーンインフラ機能をもたせ、水辺では、音楽祭などのハレの日の活動が行われ、森林は斜面を活かした居心地の良いやすらぎの空間を形成する。

WEAVING NETWORK
東静岡の流れと変化を受け止める編み目

東静岡の特性と課題

東西方向の交通（国道・南幹線・ＪＲ・静鉄）が主軸であるために、南北の流れが分断され、とくに国道１号の朝・夕の交通集中が見られます。アリーナの建設及び周辺エリアの人口増加に対応し、長沼駅からアリーナ・東静岡駅への安全でスムーズな歩行ルートを設ける必要があります。街の魅力を感じながら歩行者と軽車両（自転車・電動キックボードなど）がのびのびと移動できるような、快適で健康的な交通計画がエリアを活性化させます。

機能する編み目

自転車道を再整備し、レンタサイクルや小型モビリティのためのストックスペースを道に沿うように、あるいは駅や大型駐車場に近接して計画します。駅周辺の主要な道路は、歩行者や軽車両を優先した空間デザインとし、静岡市でパークアンドライドの概念が先行的に定着する街を目指します。結果的に幹線道路の車両との干渉が減り、安全で快適な都市環境へと向かいます。

情報の編み目

既存の東西方向の道に5つのテーマを設定し、舗装の色彩/サイン計画/街路樹計画等にコンセプトを与え、場所ごと統一感を図り、人と乗り物の速度を道ごとにデザインします。アリーナや図書館、グランシップと連動したさまざまな街の個性を「道」が顕在化させます。
5つの道に新たに設けるペデストリアンデッキ（展望の道）を加えることで、駅の南北をつなぎ、周辺全体をめぐる回遊動線をつくります。歩く距離や目的を各々が設定して楽しみながら、日常の中に徳環する人の流れを生みます。

人の流れが膨らむ編み目

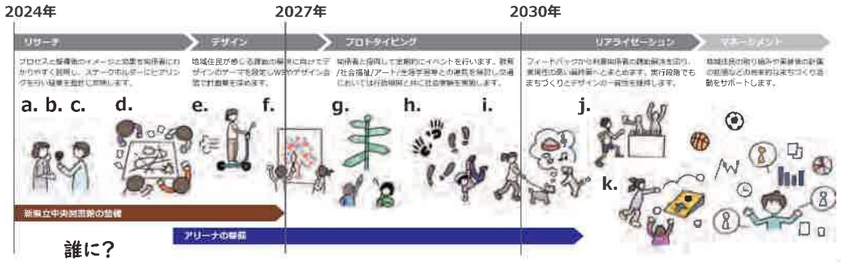
線と面の中間、**膨らんだ部分と絞られた部分がある紙縒(こより)**のように場所により多様な性格を持ち多次元に広がるネットワークの形成をイメージします。新たにデザインされた道の線が面に近る線の循環を促し、人と物の流れが毛細血管のように面的に拡がります。(鉄道、幹線道路⇒公道⇒私道、あぜ道V

拡大する面的ネットワーク

東静岡駅と拠点施設の整備を中心地として、歩行者の賑わいと商業や文化の高まりが時間をかけて街に拡大していきます。
１０～１５年後には商業店舗の出店や企業の進出が増加し、その魅力と利便性がエリアの人口増加を呼び込むことが期待され、さらに静岡駅や清水駅周辺にも効果が波及します。

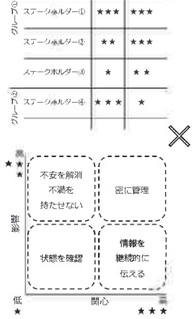
実現のためのプロセス

多角的な視点を持ってステークホルダーの意見調整を行い、最適な課題解決から街全体の発展を目指します。プロジェクトマネジメントのプロセスを軸に、デモンストレーションと分析・フィードバックを経て、都市デザインの実装に長期にわたって取組みます。

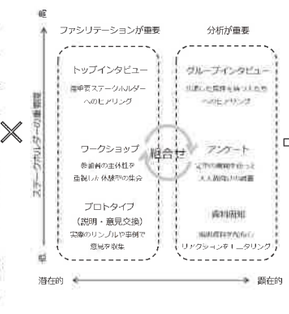


誰に？

	影響度	関心度
グループ① ステークホルダー①	★★★	★★★
ステークホルダー②	★★	★★★
グループ② ステークホルダー③	★	★★
ステークホルダー④	★★★	★



何のために？どうやって？



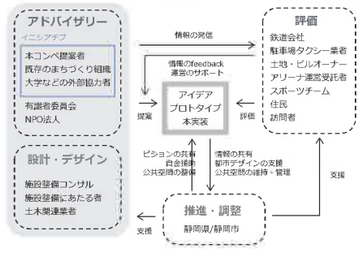
本プロジェクトでのアイデア！

《リサーチ》広報・ヒアリング
a.プロセスの説明
b.地元有力企業へのトップインタビュー
c.近隣住民とのグループインタビュー
d.ボードゲーム等を活用した整備案のシミュレーション

《デザイン》WS・デザイン会議
e.スポーツとモビリティ
f.アートと社会貢献
g.生涯学習の観点から考えるサイン計画

《プロトタイピング》実施検討
h.パフォーミングアートイベントの施策（足跡や人の動きの軌跡）を取り込む
i.ドッグランコースの二箇でペットと楽しむ催し（わんにゃんマーケットなど）
j.勝岡マラソンの休憩スポット
k.持ち運びできるボールゲームやペタルティーロのバスケットコートなどを活用したスポーツに関わる人と地域で生活する人を結ぶ試み

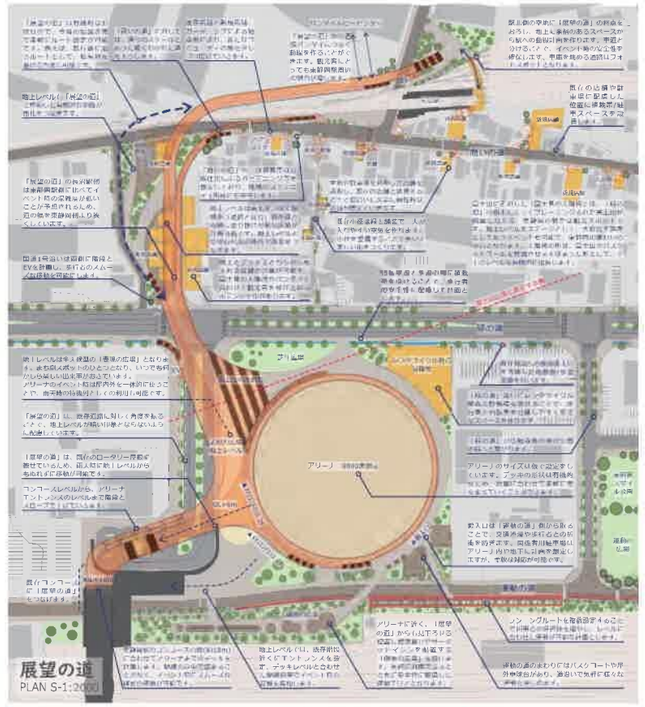
推進体制



デザイン・プロジェクトマネージメントチームの役割
1) ヒアリング、プロトタイピングにより得た情報を集約し都市デザインに反映
2) 地域住民への情報発信
3) 公共スペースの管理・運営
4) ステークホルダー間の意見調整

効果的な運営形態と組織

まちづくりの推進にあたっては全体を俯瞰的に統括するプロジェクトマネージャーの必要性が高く、本コンペ提案者を含む体制の構築を提案します。難しい課題を最短経路で定着させる効率の良い手法を模索しながら進めます。
特に行政が主導する都市基盤の整備について、関係者調整を支援し、効果的な官民連携の成果を引き出します。
民間事業者や教育機関などの外部協力者を呼び込み、協同することで新しいアイデアと試行を継続的に進めます。
また、地域住民は提案の評価だけでなく、デザインに参加してもらう機会をつくり、地域全体が参画するプロジェクト運営を目指します。

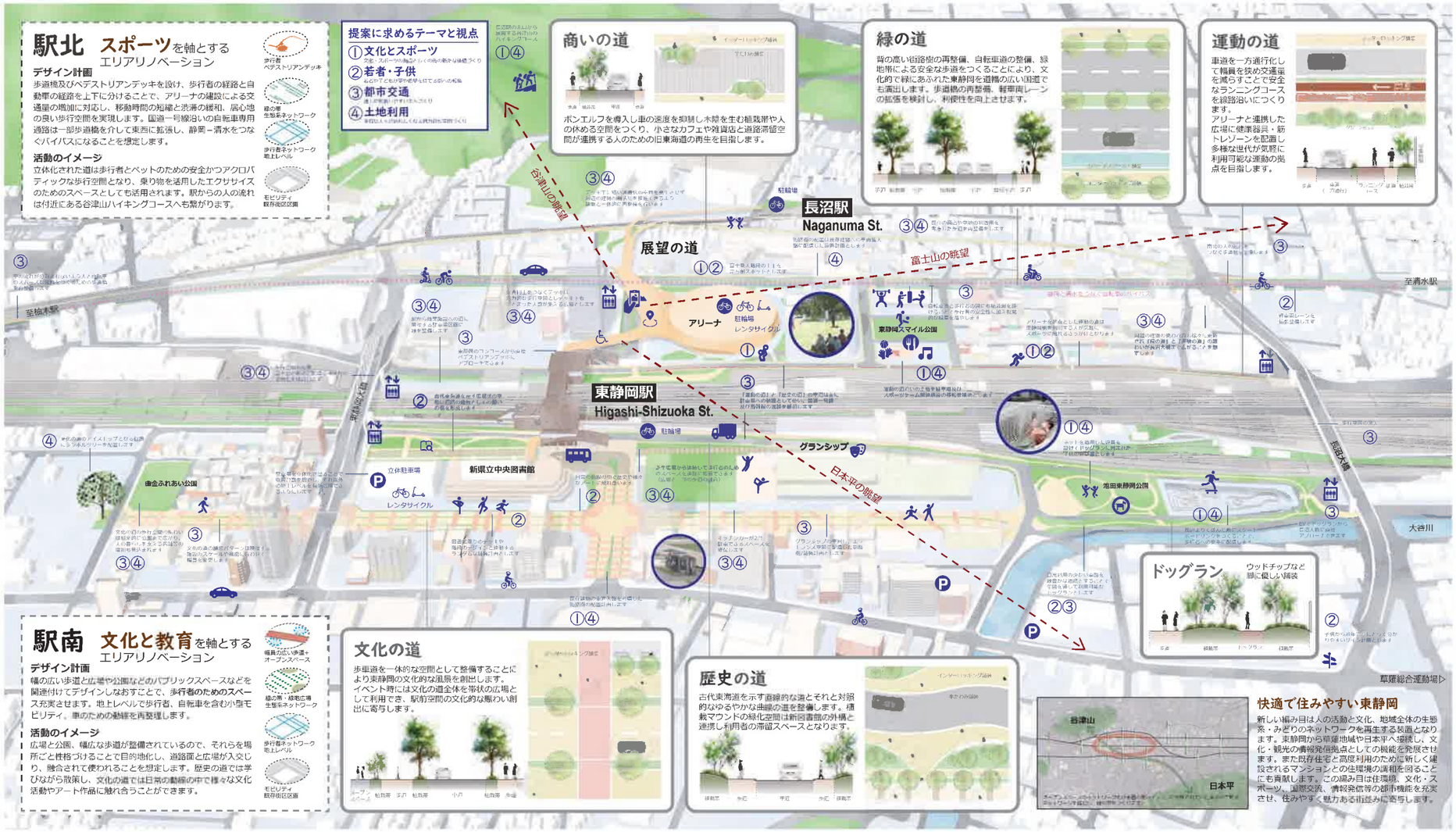


駅北 スポーツを軸とするエリアリノベーション

デザイン計画
歩道橋及びペデストリアンデッキを設け、歩行者の経路と自動車の経路を上下に分けることで、アリーナの建設による交通量の増加に対応し、移動時間の短縮と渋滞の緩和、高心地の良い歩行空間を実現します。国道一号線沿いの自転車専用通路は一部歩道橋を介して東西に拡張し、静岡－清水をつなぐバイパスになることを想定します。

活動のイメージ
立体化された道は歩行者とペットのための安全かつアクロバティックな歩行空間となり、乗り物を活用したエクササイズのためのスペースとしても活用されます。駅からの人の流れは付近にある谷津山ハイキングコースへも繋がります。

提案に求めるテーマと視点
① 文化とスポーツ
② 若者・子供
③ 都市交通
④ 土地利用



駅南 文化と教育を軸とするエリアリノベーション

デザイン計画
幅の広い歩道と広場や公園などのパブリックスペースなどを関連付けてデザインしなおすことで、歩行者のためのスペース充実させます。地上レベルで歩行者、自転車を含む小型モビリティ。車のための動線を再整理します。

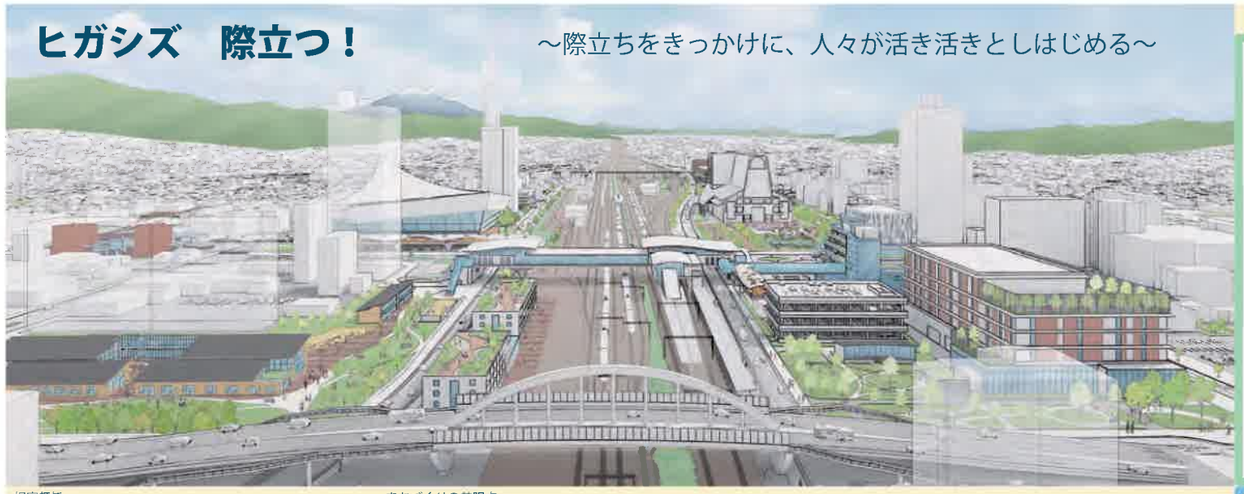
活動のイメージ
広場と公園、幅広な歩道が整備されているので、それらを場所ごと性格づけることで目的地化し、道路面と広場が入交じり、融合されて使われることを想定します。歴史の道では学びながら散策し、文化の道では日常の動線の中で様々な文化活動やアート作品に触れ合うことができます。

快適で住みやすい東静岡

新しい編み目は人の活動と文化、地域全体の生態系・みどりのネットワークを再生する装置となります。東静岡から草薙地域や日本平へ接続し、文化・観光の情報発信拠点としての機能を発展させます。また既存住宅と高度利用のために新しく建設されるマンションとの住環境の調和を図ることにも貢献します。この編み目は住環境、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能を充実させ、住みやすく魅力あるまちづくりに寄与します。

ヒガシズ　際立つ！

～際立ちをきっかけに、人々が活き活きとしはじめる～



提案趣旨

ヒガシズ　際立つ！

古代から東海道の交通路として続いてきた場所に1990年代になってから土地区画整理事業が始まり、旅客駅が開業し、東静岡というまちが誕生した。まだ若い発展途上のまちであるものの、これまでにグランシップ、大型商業施設、オフィスやマンションなどが建ち並び、県立図書館、アリーナも整備されようとしている。

個性的な施設が揃うまちになりつつある今、これからは施設だけでなく、まちとしての魅力も際立たせていきたい。これまで築かれてきたまちの活かし方、技術の進展に伴うこれからのまちのあり方を見据えながら、まずはこのまちに相応しい姿を見極めて、際立たせていこう！

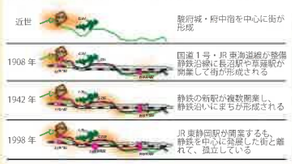
まちが際立ってきて、それらが束ねられるように連携すれば、自然に裾野も広がり、関係者もより活き活きとしてくるはず。そうなれば、これまで縁の薄かった人たちでも愛度の高い人たちからこのまちに吸い寄せられ、様々な人たちが自分たちのまちとして愛着を深めていくことも。

そうしたまちは静岡に活気をもたらし、ヒガシズと呼ばれながら、新たな価値を創造するまちとなる。

まちづくりの着眼点

細長く発達したまちの使い方

古代から東日本と西日本を結ぶ重要なルートの一部
線路沿いの余白と細長いまちの形状を使いこなす必要



２つの都心の間に位置するまち

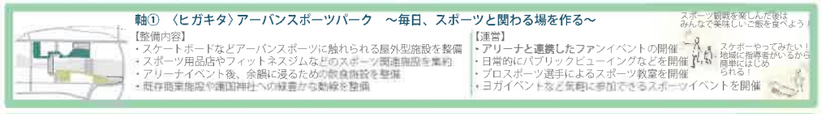
静岡都心・清水都心からアクセスしやすい立地
２つの都心と差別化しながら、静岡全体の発展を促す必要

時代の新たな流れをとりこむ

新モビリティやデジタルツインの開発が加速している
日々加速する新技術を活用したまちづくりが必要

ヒガシズをつくる５つの際立ち

「２つの軸」が線路沿いの細長いヒガシズを際立たせる

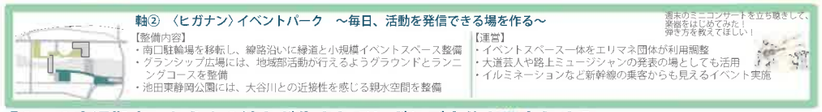


軸①〈ヒガキタ〉アーバンスポーツパーク　～毎日、スポーツと関わる場を作る～

【整備内容】
- スケートボードなどアーバンスポーツに触れられる屋外型施設を整備
- スポーツ用品店やフィットネスジムなどのスポーツ関連施設を集約
- アリーナイベント後、余韻に浸るための飲食施設を整備
- 既存商業施設や諏訪神社への緑豊かな動線を整備

【運営】
- アリーナと連携したファンイベントの開催
- 日常的にパブリックビューイングなどを開催
- プロスポーツ選手によるスポーツ教室を開催
- ヨガイベントなど気軽に参加できるスポーツイベントを開催

スポーツ観戦を楽しんだ後はみんなで実践しに公園を食べよう！
スケボーやってみたい！地域に指導者がいるから簡単にはじめられる！



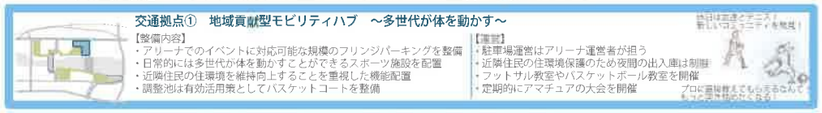
軸②〈ヒガナン〉イベントパーク　～毎日、活動を発信できる場を作る～

【整備内容】
- 南口駐輪場を移転し、線路沿いに緑道と小規模イベントスペース整備
- グランシップ広場には、地域部活動が行えるようグラウンドとランニングコースを整備
- 池田東静岡公園には、大谷川との近接性を感じる親水空間を整備

【運営】
- イベントスペース一体をエリマネ団体が利用調整
- 大道芸人や路上ミュージシャンの発表の場としても活用
- イルミネーションなど新幹線の乗客からも見えるイベント実施

楽器のミニコンサートを立ち聴きして、楽器をはじめてみた！弾き方を教えてほしい！

「３つの交通拠点」から人の流れが生まれてヒガシズ全体を際立たせる

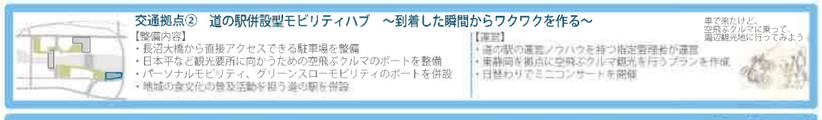


交通拠点①　地域貢献型モビリティハブ　～多世代が体を動かす～

【整備内容】
- アリーナでのイベントに対応可能な規模のフリンジパーキングを整備
- 日常的には多世代が体を動かすことができるスポーツ施設を配置
- 近隣住民の住環境を維持向上することを重視した機能配置
- 調整池は有効活用策としてバスケットコートを整備

【運営】
- 駐車場運営はアリーナ運営者が担う
- 近隣住民の住環境保護のため夜間の出入口は制限
- フットサル教室やバスケットボール教室を開催
- 定期的にアマチュアの大会を開催

地域住民達とデコピン！新しいコミュニティを発見！
プロ選手がもしもうまくなんて！夢を見られたらなる！



交通拠点②　道の駅併設型モビリティハブ　～到着した瞬間からワクワクを作る～

【整備内容】
- 長沼大橋から直接アクセスできる駐車場を整備
- 日本平など観光要所に向かうための空飛ぶクルマのポートを整備
- パーソナルモビリティ、グリーンスローモビリティのポートを併設
- 地域の食文化の普及活動を担う道の駅を併設

【運営】
- 道の駅の運営ノウハウを持つ指定管理者が運営
- 東静岡を拠点に空飛ぶクルマ観光を行うプランを作成
- 日替わりでミニコンサートを開催

車で来たけど、空飛ぶクルマに乗って周辺観光地に行ってみよう

交通拠点③　交流促進型コンコース　～モビリティと人、スポーツマンと文化人が交わる～

【整備内容】
- グリーンスローモビリティが通過するルートを分かりやすく整備
- イベント情報や試合の様子を発信できるデジタルサイネージを整備
- 大規模イベント時に搬去可能なベンチや植栽を設置

【運営】
- 静岡県、静岡市協力のもと、日常的にイベントを開催
- 北側ではパブリックビューイングを実施
- 南側では話題の書籍や雑誌を配置

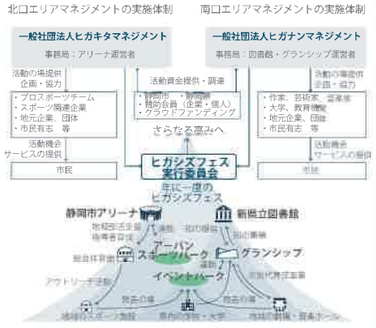
モビリティに乗ってみる体験の場！

リアルとデジタルを最大限活用した住民参加により静岡人のやる気をさらに際立たせる

やる気を際立たせるための基本方針

実現に向けたロードマップ

東静岡駅南北が競い高め合う成長システム



ヒガシズを際立たせる、未来構想

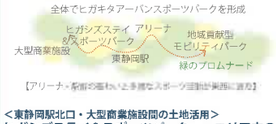
選択した視点番号①・②・③・④

軸①〈ヒガキタ〉　アーバンスポーツパーク　～毎日、スポーツと関わる場を作る～

＜東静岡駅北口の線路際の使い方を際立たせる＞

ヒガキタ アーバンスポーツパーク ～スポーツを日常に～

- 北口はアリーナを核として、大型商業施設から新たに整備する《地域貢献型モビリティハブ》を繋ぐ「緑のプロムナード」を整備
- 駅コンコースから人々を誘引し、集客施設に導き、東静岡で滞在するきっかけを創出
- 公共空間やアリーナ、各施設を活用して、ストリートスポーツやプロスポーツまで、様々なスポーツ活動を展開



【アリーナ・駅前の賑わいと多種なスポーツ活動が実現に直結】

※東静岡駅からデッキとアリーナを臨む（視点A）

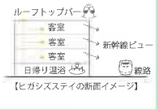
＜東静岡駅北口・大型商業施設間の土地活用＞

ヒガシズステイ＆スポーツパーク　～エリア内の回遊・滞在を促す～

《スポーツパーク》
- 障がい者でもスポーツを楽しめるよう、アダプテッド・スポーツを中心とした スポーツマルシェ等のイベントを定期的に行う可変性のある空間として整備
- 若者が幅広く新たなスポーツに挑戦する機会を得られるよう、スケボー、3on3等のストリートスポーツに対応
- 地域部活動の受け皿としても機能

【スポーツパークの平面イメージ】

《ヒガシズステイ》
- 緑のプロムナード沿いに、新たな寄り道施設として、日帰り温泉やルーフトップバーも備えた宿泊施設を整備
- グラウンドレベルを走行する新幹線を間近で見ることができるなど、東静岡らしさを感じられるホテルとして日常から利用客を呼び込む

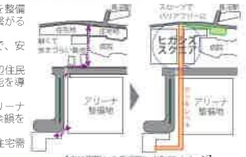


【ヒガシズステイの断面イメージ】

＜東静岡駅北口・長沼駅間を際立たせる＞

両駅を結ぶスロープ（長沼坂）と商業 / 住宅機能を導入

- 市街地再開発事業で《ヒガシズスクエア》を整備
- 歩行者とモビリティの動線として長沼駅へ繋がるスロープ（長沼坂）を整備
- 長沼駅前に歩行者滞留空間を整備することで、安全性を確保
- スロープに沿う形で、アリーナ利用者や周辺住民が寄り道したくなる飲食・物販等の商業機能を導入
- 日常生活の利便性を高めるだけでなく、アリーナイベント時といった非日常では、期待感や余韻を楽しむ滞在空間として機能
- ヒガシズが際立つことで増加が見込まれる住宅需要に対応



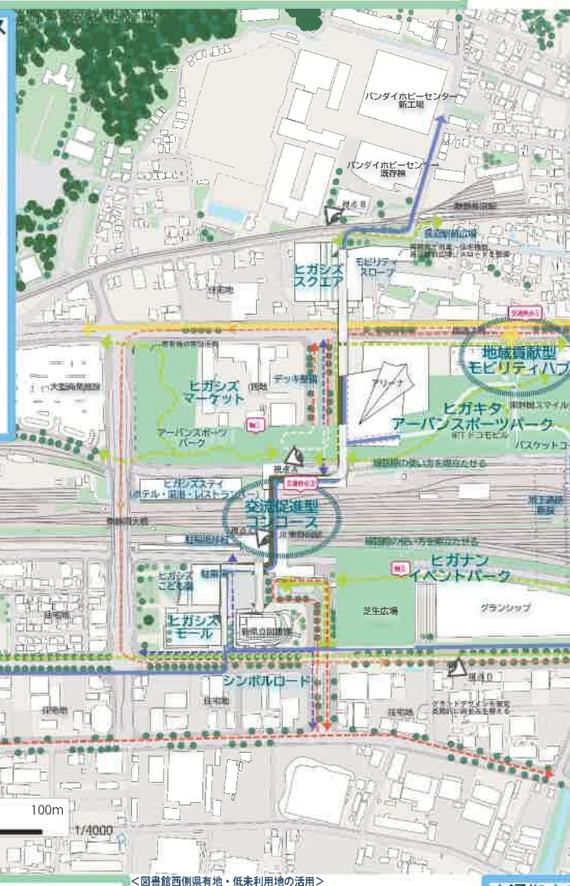
【東静岡駅から長沼駅への動線イメージ】

※長沼駅からヒガシズスクエア、長沼坂、アリーナを見る（視点B）

交通拠点③　交流促進型コンコース ～モビリティと人、スポーツマンと文化人が交わる～

※東静岡駅コンコース（南側）のイメージ（視点C）

＜駅コンコースの再整備・活用促進＞
- 北口のアリーナの賑わいと、南口の図書館の賑わいが染み出す空間として整備
- 南北の通り道ではなく、滞在できる空間として、平日休日問わずその人々が活気で満たされる空間として計画
- 結節回遊を集めた南北の駅コンコースに発信したり、アリーナでのスポーツ試合を大型スクリーンに投影したりすることで、サブ回遊軸、サブアリーナの役割を果たし、来訪者の南北エリア内に準じた距離を近づける



交通拠点①　地域貢献型モビリティハブ ～多世代が体を動かす～

＜アリーナ東側エリア・調整池の活用＞

- 東静岡エリア周遊のフリンジパーキングを整備
- 屋上にはフットサル・テニス・ビーチバレーのコートを整備
- 車のショールームをイメージさせるガラス張りのファサード
- 東静岡スマイル公園は近隣の子供たちが毎日遊ぶ場所として継続利用
- 調整池はバスケットコートとして活用

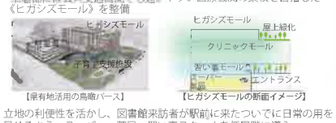
＜中部電力変電所・営業所エリア土地活用＞

シンボルロードのトメとなる施設として大学を誘致

- 郊外に立地している大学のサテライト機能を誘致
- 大学を誘致することで、ヒガシズに継続的に若い世代の流入を促すことができる
- 学生だけでなく、社会人やリタイアしたかた、主婦や高齢者等、幅広い年齢層のため夜間の出入口は制限
- 興味ある分野を学び続けられる新しい形の大学を整備
- スタートアップ企業が大学と連携して新たな事業や技術を生み出すためのコワーキング施設を整備

＜図書館西側県有地・低未利用地の活用＞

駅前の利便性の高い立地を活かし、低層部にはスーパー、薬局、上層部には公共交通機関でも通いやすい医療機関の集積を目指した《ヒガシズモール》を整備



【県有地活用の鳥瞰パース】　【ヒガシズモールの断面イメージ】

- 立地の利便性を活かし、図書館来訪者が駅前に来たついでに日常の用を足せるよう、スーパー・薬局・習い事スクールを低層階に導入
- 上層階には健康診断にも対応できるクリニックモールを誘致し、新たな雇用を創出するとともに市民の利便性向上を実現
- 図書館来訪者と併用の駐車場とすることで、公共交通機関だけではなく、車でもアクセスしやすい環境を整備

軸②〈ヒガナン〉　イベントパーク ～毎日、活動を発信できる場を線路際に作る～

＜東静岡駅線路際再整備・グランシップ芝生広場活用＞

- 東静岡駅南口自転車等駐輪場を西側に移設し、線路際に緑道を形成
- グランシップ広場は隣接する図書館の読書広場としての役割を果たし、週末は、屋外コンサート、絵画教室、フードフェスティバル等のイベントを開催
- シンボルロードはモビリティ・歩行者が絶えず往来する空間となり、沿道には屋外ファニチャーを設け、各々が思い思いに過ごせる場として機能

※グランシップ西側の芝生広場とシンボルロードのイメージ（視点D）

交通拠点②　道の駅併設型モビリティハブ ～到着した瞬間からワクワクを作る～

＜長沼大橋架け替え・調整池の活用・池田東静岡公園再整備＞

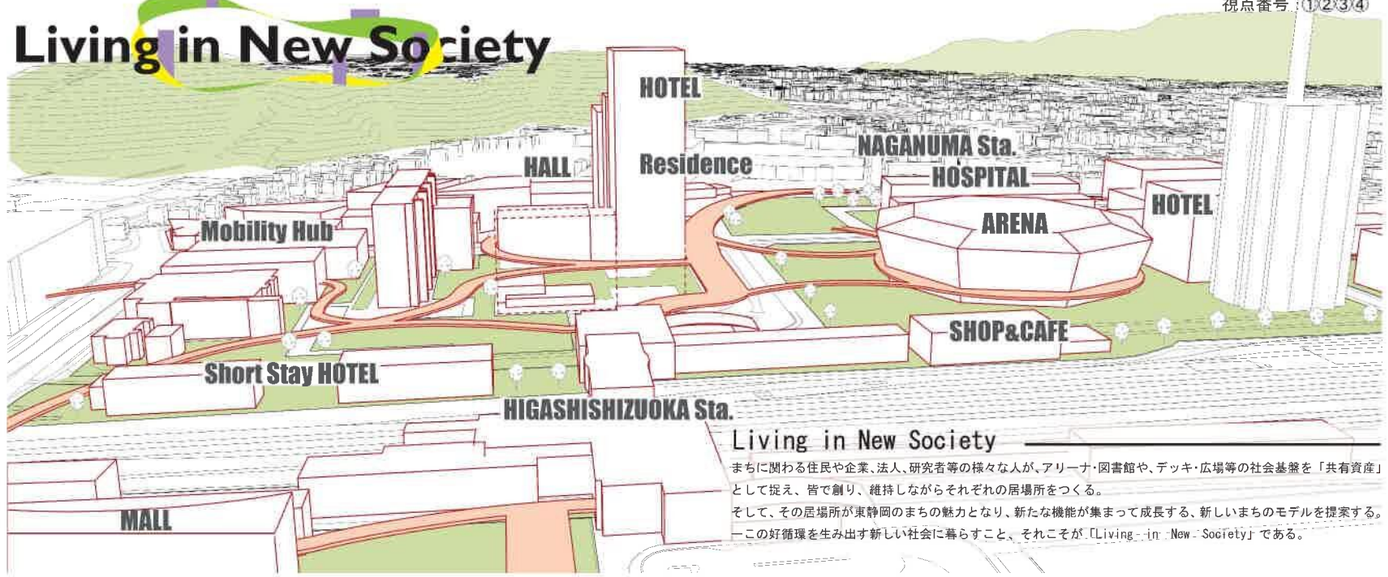
- 調整池の上海空間を活用し、長沼大橋から直結する形で南口の新たなゲートウェイとなるモビリティハブを整備
- 低層部分には道の駅を併設させ、東静岡来訪者のおもてなし空間としても機能
- 来訪者は車から乗換え、空飛ぶクルマやグリーンスローモビリティに乗って、東静岡駅前エリアや、周辺観光地等へ移動することで渋滞を緩和
- 池田東静岡公園にはビオトープと噴水を整備し、心地よい親水空間を演出

【道の駅併設型モビリティハブ・断面イメージ】

※調整池と池田東静岡公園、長沼大橋を望む（視点E）

Living in New Society

視点番号：①②③④



Living in New Society

まちに関わる住民や企業、法人、研究者等の様々な人が、アリーナ・図書館や、デッキ・広場等の社会基盤を「共有資産」として捉え、皆で創り、維持しながらそれぞれの居場所をつくる。

そして、その居場所が東静岡のまちの魅力となり、新たな機能が集まって成長する、新しいまちのモデルを提案する。

―この好循環を生み出す新しい社会に暮らすこと、それこそが「Living in New Society」である。

1 東静岡地区の位置づけ

①新たなまちを体現できる素地

総合計画において、静岡駅周辺は鎌倉時代から続く文化の継承地として、清水駅周辺は日本有数の漁獲量を誇る港町としてまちの方針が定められているが、東静岡地区は歴史的にも地理的にも文脈の薄いまだ新しいまちである。

また静岡駅から一駅という高い交通利便性やゆとりのある街並みから、今後の開発によって賑わいを生み出すポテンシャルは高く、東静岡は新しい文化・体験を形成しながら発展する先進的なまちの在り方が望まれている。

②ポテンシャルと課題

当該地区は、かつての国鉄貨物駅の跡地からの開発途上にあるため駅周りにも未利用地が多い。広域的には、玩具メーカーやインフラ企業、東名高速道路沿いにはＥＣ拠点があるなど、産業や物流も盛んなエリアである。さらに、土地区画整理事業によるゆとりある街路空間と、谷津山や日本平、富士山と自然にも恵まれ、居心地の良い住環境が整備されている。

一方、北から国道１号、JR 線、南幹線と道路や線路によって街区は分断されており、地面レベルでの徒歩による周遊は難しい状況である。

2 まちづくりの方向性

①交流人口の増加に向けた付帯的な施設と社会基盤の整備

・集客力の高いアリーナや図書館の整備により交流人口は増えるが、定常的な賑わいに結びつけていくためには、段階的にさらなる付帯的な施設を整備する必要がある。

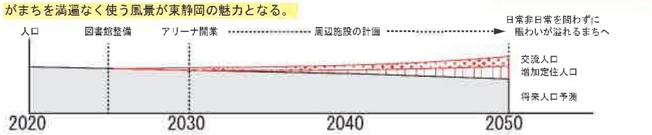
（例：広場、ホテル（長期・短中期）、商業施設、さらにスポーツ・文化と親和性の高い医療や研究施設等）

・交流人口が増えれば、それを受け止める社会基盤が必要となる。特に長沼駅周辺は道幅も狭く、現況のままでは日常にも混乱を与えかねない。交流人口の増加を見越したゆとりある社会基盤の整備が求められる。

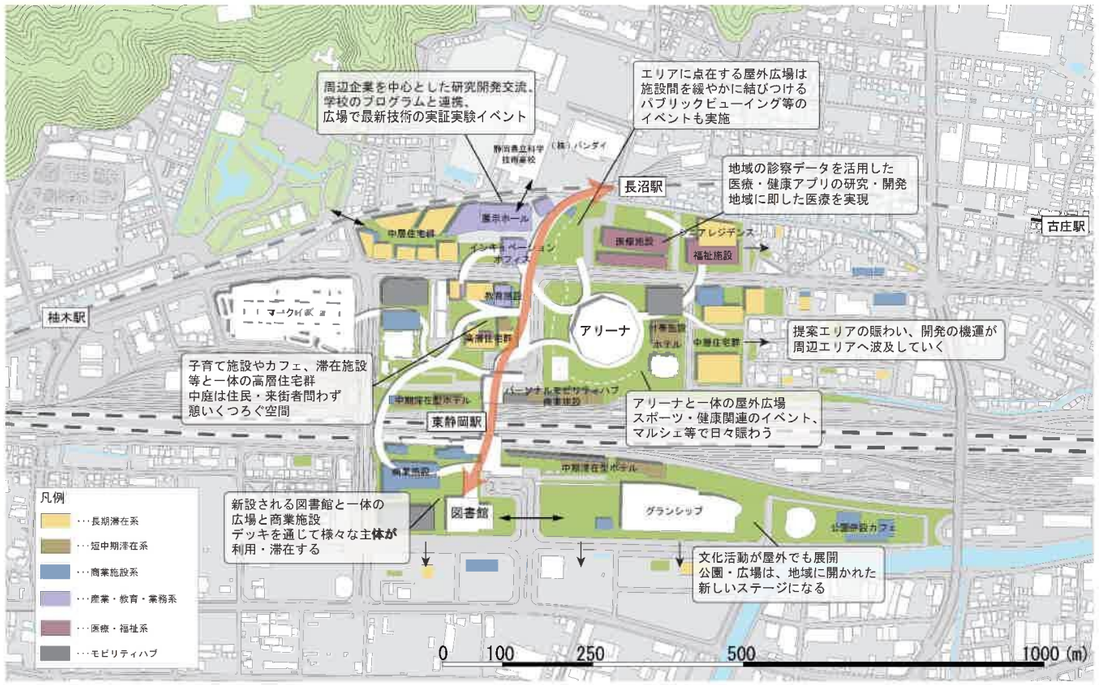
②定住人口の増加に向けた住宅整備とまちを支える仕組みづくり

・交流人口の増加により生まれる一時的な賑わいを持続的なものにするため、市と協同してまちづくりを推進するパートナーを選定する。あらゆる世代・ライフスタイルを受け止め、日常的に人々の交流が生む住宅を整備し、定住人口の増加を図る。

・デッキや広場は日常にも豊かさをもたらす社会基盤となり、ここで暮らす人々も共有資産として維持管理に関わるようになる。賑わいと暮らしによる管理の循環により、まちは時間をかけて育まれ、日常・非日常に関わらず人々がまちを満遍なく使う風景が東静岡の魅力となる。



3 全体構想案



計画手法

①共有資産と個人の居場所

東静岡駅から長沼駅を繋ぐデッキ、アリーナから長沼駅に広がる広場、図書館とグランシップに包まれた広場。この３つはまちの重要な共有資産。これらを中心に、デッキや広場がにじみ出し、住民・オフィスワーカー・来訪者は各々の居場所を見つけ、まちの風景になる。

②デッキがつなぐミクストユースなまち

アリーナや図書館だけでなく、ホテルやオフィス、商業施設や教育・医療施設をエリア内に点在させ、それらを社会基盤で繋ぐ。これにより、エリア全体が満遍なく使われ、社会基盤にも多様な人々の活動が滲みだす。

③車両と歩行者の交錯を防ぐモビリティハブ

周囲の幹線道路と大橋の交差部に、モビリティハブを整備し、エリア内の車の侵入を制限する。これにより日常も非日常も歩行者の安全な歩行空間を確保する。またこのハブは、将来的にエリア内の人や物の流れも円滑にする先端技術の導入余地も残す。

④東静岡らしい景観と調和したボリューム

特徴的な景観である谷津山や日本平、富士山の見える景色を生かすよう、どの地点においても東静岡らしい豊かな自然を体感できる建物ボリュームとする。住む人も訪れる人も東静岡のまちのシーンを感じ、このまちにいることを実感させる。

4 まちの日常の風景

北西の中層住宅に住む家族　シニアレジデンスに住む高齢者　周辺企業のワーカー　バスケの試合を見に来たサポーター　マンションに住む子育てママ

※画像の作成には AI を活用しています

5 実現に向けたストーリー

多様な人々が交流し、豊かに暮らすまちの実現に向け、市と協同してまちづくりを推進する開発力・資金力等に優れたまちづくりパートナーを定める。図書館、アリーナの整備にあわせてデッキや屋外広場の整備を進めるとともに、まちづくりパートナーと協同して交流人口・定住人口の増加、それを受け止める十分な社会基盤、賑わいを創出する空間と仕組みの実現に向けた取組みを段階的に進める。また、各施設やまちの共有資産となる広場等を含めた管理運営を行う組織を組成し、住民や周辺企業も参画する一丸となった持続可能なまちづくりを実現する。

プロセス

2024 → 2027（静岡県立中央図書館オープン） → 2030（アリーナオープン） → 2035（周辺施設の計画（ホテル、オフィス、商業、医療、大学 等）） → 2040 → 2050

PHASE 0
パートナーの選定と
全体ビジョンの検討

PHASE 1
アリーナ街区のまちびらきとまちの骨格整備
（デッキ・広場・モビリティ等）

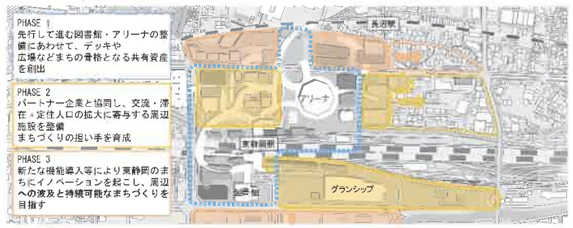
PHASE 2
周辺施設整備による
交流・滞在・定住人口の拡大

PHASE 3
新機能の強化（医療・文化）による
東静岡エリア全体の活性化・醸成

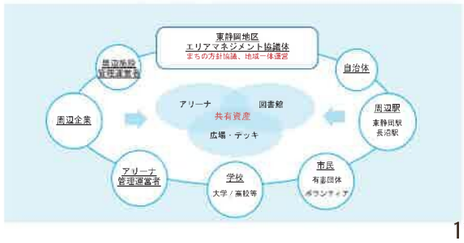
東静岡エリアパートナー選定
エリア全体の中期的な活性化を前提とした市街地活用の提案
＋アリーナ等の段階的な整備原資の確保

パートナー企業・住民と連携した段階的なまちづくり
パートナー企業の役割　①アリーナの管理運営
パートナー企業の役割　②公有地の関連開発
パートナー企業の役割　③周辺地域の開発を仕掛ける
図書館・アリーナ・市有地活用を起爆剤に基盤・拠点・協議体の組成に取組む

段階的整備のイメージ



管理運営体制のイメージ



まち まるごと アリーナ

アリーナに頼りすぎない新たな副都心のつくりかた

市が令和５年に発表した試算の中で、施設整備費の採算性は取れないとされています。また、施設規模を大きくすれば維持管理の採算性の見込みはあるとされていますが、周辺のエコパアリーナ、このはなアリーナとの差別化は必須です。都市機能を充実させ便利で住みやすいまちづくりを進めるとともに、大都市とは異なる多様なまちの質感を生み出すことが重要です。そのためには、アリーナのような大きな施設を整備するだけではなく、まちなかに小さな拠点を整備し、そこを結ぶ回遊性を高める必要があります。

静岡市の広域自然環境分析

下記の通り地質や地形が多様であり、開発適地と不適地が入り混じっています。また、静岡ならではの自然環境に加えて、気候は温暖で過ごしやすいという特色があります。

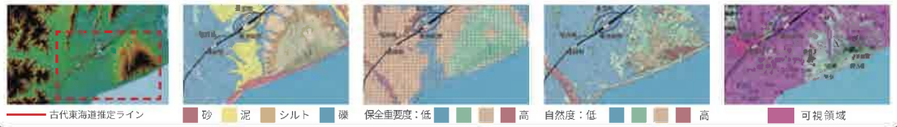
〈過去の地盤を移す地形〉
縄文時代には現在の麻機地域までが深い入り江になっていました。また日本平の丘陵地が隆起し、その後麻機湾が消失し、現在の地形となりました。

〈表層地質〉
表層地質が多様に分布しています。礫（透水層）と泥（不透水層）の場では湧水が発生し、地下水位の高いシルトや砂層は液状化の危険性があります。

〈地形〉
扇状地、三角州、後背湿地などが展開しています。東静岡駅周辺は後背湿地が広がり、農業の適地ですが、水はけが悪く相対的に建築に不向きです。

〈植生自然度〉
エリア周辺には、谷津山、尾照山地、麻機沼、日本平という豊かな自然が広がっています。青から赤になるにつれて植生の自然の重要性が高いです。

〈富士山頂からの可視領域〉
剣ヶ峰からの可視領域がエリア全体に広がっています。約 50km の距離で、建物などの遮蔽物がなければ富士山を眺められるポテンシャルがあります。



東静岡駅エリアの歴史や そのまちらしさ

自然環境の形成過程に起因して、東静岡には東西方向に伸びる古代東海道を含めた交通軸が集積してきました。人が歩き、出会い、文化を生んできた一方で、水はけの悪い土地であり土地利用が進まず大規模な操車場がありました。近年は、大規模な開発が進み申請な都市構造・景観になりつつあります。

〈麻機沼と利用しづらい地質〉

七夕豪雨の浸水被害を受けた麻機の様子。
放水路や遊水地の建設によって開発が可能になった。

出典：&I協議「大谷川放水路」

〈あたらしく大きなまち〉

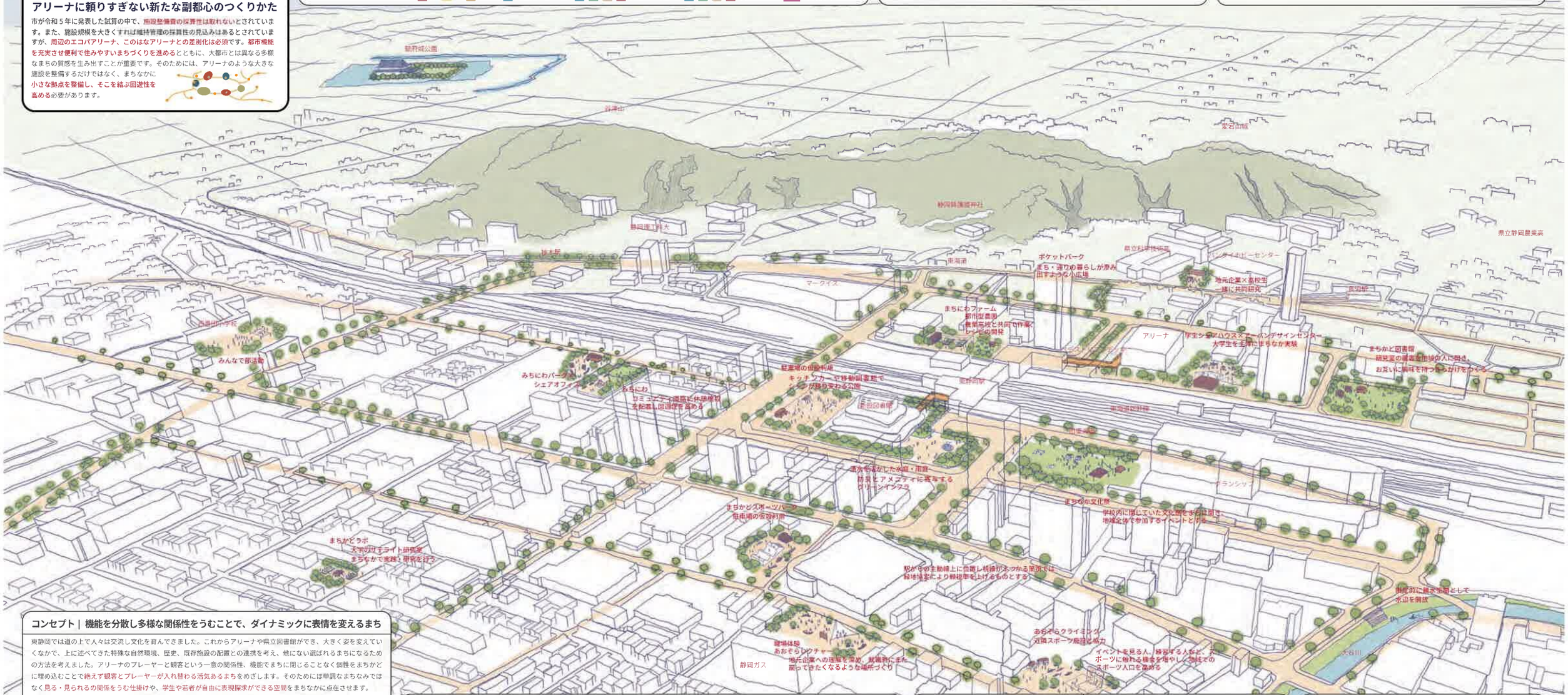
静岡の副都心として再開発の大スケールの建物や区画による新たなまちができつつある。

出典：グランシップHP

これからの時代に選ばれるまちとは？

現代の日本の都市や集落は「自然の姿」と「土地利用の姿」の２つの軸で理解できると考えました。縮退の時代における都市間競争を勝ち抜くためには、右記のいずれかの地域像に向けて地域らしさを磨いていく必要があります。対象地のポテンシャルや動向から第４条限を目指すべきと考えます。

〈 静岡市の人口動態の現状 〉
- 移住者の転入人口が多い
- 就学 / 就職による転出が多い　→転入を転出が上回る
- 就学 / 就職の転出は減らせない　→ U/I/J ターンを増やす必要
- I ターンが多い　→外の人に魅力的
- U ターンが少ない　→転出前の若者にとって魅力的でない



コンセプト｜機能を分散し多様な関係性をうむことで、ダイナミックに表情を変えるまち

東静岡では道の上で人々は交流し文化を育んできました。これからアリーナや県立図書館ができ、大きく姿を変えていくなかで、上に述べてきた特殊な自然環境、歴史、既存施設の配置との連携を考え、他にない選ばれるまちになるための方法を考えました。アリーナのプレーヤーと観客という一意の関係性、機能でまちに閉じることなく個性をまちかどに埋め込むことで絶えず観客とプレーヤーが入れ替わる活気あるまちをめざします。そのためには単調なまちなみではなく見る・見られるの関係をうむ仕掛けや、学生や若者が自由に表現探求ができる空間をまちなかに点在させます。

まちづくりの基本方針｜本コンペにおける提案の４つの視点に対応する４つの方針

本コンペの視点を下記の通り整理しました。周辺の大学や高校、他地域大学のまちづくりに関わる分野の研究室を研究室単位でまちの低層部分に挿入します。学生は現場の生のデータや声にアクセスができ、地域には常に若者の姿が現れます。研究室以外にもシェアハウス×アリーナ利用者の宿泊、地域の飲食店を食堂代わりに使うといった相乗効果を狙います。また、こうした「まちなかどラボ」の成果の発表会として「まちなか文化祭」を行います。広域的な集客イベントではなく、住民が地域のことを知り、愛着を持つ機会としてまちの非日常の姿を生み出していきます。長期的にはルールやガイドラインを作りまちの土地利用を転換していきます。

〈 提案に関わる方針の構成 〉

短期的 活用

視点① 若者・子ども　A: 祝祭性の創出

時間軸

視点① 新たな価値づくり　B: 界隈性の創出

視点② 交通・歩きやすさ　C: 回遊性の創出

長期的 日常

視点③ 土地利用・空間づくり　D: まちの土台・ルール作り

A: まちなか文化祭
まちに関する活動をまち全体を使ってお披露目する機会
住民が地域のことを理解し愛着を深める日

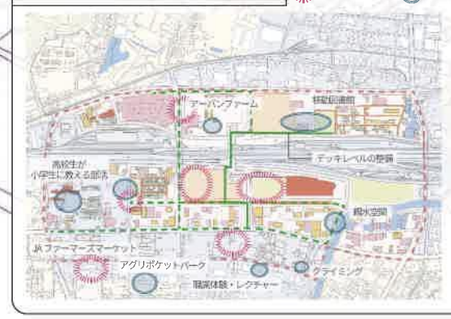
B: まちかどラボ
- サテライトラボ
- 学生シェアハウス
- 食堂一軒食店
- 銭湯 / サウナ

C: 水と緑のコリドー
- 自転車道　- デッキ　- 飛庭

- 一階レベルの機能誘導　- 公開空地の整備　- 沿道の緑化 / 緑地協定

まちをかき混ぜる土地利用・空間方針

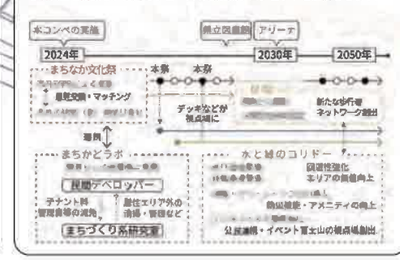
方針Ａ実施箇所　方針Ｂ実施箇所　方針Ｃ実施箇所



用途地域は駅を中心に商業、工業地域、住居地域と広がり現況の土地利用も概ね同様です。旧街道や線路による東西の軸が強く、北側にはアリーナやマークイズなどのにぎわい・交流関連の施設、南側は県立図書館や高層マンションが並び、教育や文化の拠点が並びます。これらの目的地が駅の南北で偏りがないよう、機能を南北で分散させることで、様々な目的を持つ人々の様々な移動が生まれ、そこにまちの交流が生まれます。方針Ａ～Ｃの関係性を図示します。

実現に向けたタイムライン

新たに開発するまちは、人が定着し風景ができるのに時間を要します。東静岡エリアには新住民への呼び水として県下の学生や全国のまちづくりに関わる研究室を誘致し、活用のフェーズを各建設プロジェクトと連携させます。



マッシュアップ リング －ヒューマンスケールデザインによる“ヒガシズ文化”の形成－

mash-up

マッシュアップとは、複数の素材を混ぜ合わせて新たな価値を創出すること。ハレとケ、来訪者と居住者、新規住民と既存住民、車と人、公と民、文化とスポーツ、などなど。本提案では東静岡が抱える課題を、マッシュアップなゾーニングとリング状の都市基盤整備、ヒューマンスケールなデザインでの解決を志向する。その過程を通じて、エリアの気風としてチャレンジングなヒガシズ文化の形成を目指す。まずはあなたと共に。マッシュアップ！

再編　ミックス　複合　融合　マッシュアップ mash-up　再構築　連携　組成　コラボレーション

現状認識

● まちへの愛着醸成で「選ばれる静岡市」へ

静岡市は、東京・名古屋の中間に位置し、人口流出が起きやすい立地にある。市場規模で成立するコンテンツで東京等に対峙するのは難しく、将来にわたり、「選ばれる静岡」を実現するためのキーワードは「まちへの愛着醸成」である。

● 主要駅の新たな魅力が静岡市への愛着を生み出す

都心回帰が進むなか、都市魅力や静岡市の愛着を醸し出すのは、駅周辺の界隈性であり、こうした拠点が魅力的であることが重要である。

そのため、静岡駅・東静岡駅・清水駅がそれぞれの資源をいかした拠点形成を図る必要がある。

● 愛着を醸成するのは、多様な目的とまちへの関わり

愛着を醸成するのは、多様な目的を許容し、無目的でも滞在できる機能・空間（都市構造）とまちへの関心、関わりを作るコミュニティである。

静岡市が都市間競争で生き残り、都心回帰の受け皿となるエリアに愛着を感じるまちの形成を目指す。

東静岡の特性と役割

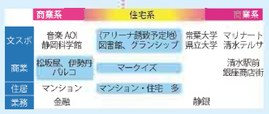
● 文化・スポーツ

東静岡駅は、商業系と住居系が混在する土地利用で、駅周辺は区画整理に伴うインフラ整備、公共施設整備が進む、新しいまちである。

他の主要駅に比べ、文化・スポーツの機能が集中するほか、近年、民間の集合住宅の整備が進み、居住人口も増加している。

将来的には、集約連携型都市構造の拠点を担い、交通結節としての役割も求められる。

東静岡では、文化・スポーツを中心とした多様な居場所づくりとコミュニティ醸成を図り、 静岡に愛着がもてる環境づくりを目指す。



現状分析・課題認識

機能・空間（都市構造）からみた課題

● 主たる目的地への利便性が高すぎる

目的性の高い文化施設等へのアクセス性が高く、目的以外の立ち寄りや滞在できる空間が少ないため、まちの回遊性に乏しい。

● 馴染みの店など個性ある店舗が少ない

沿道立地の商業が多く、ナショナルチェーン等が中心。まち固有のふらっと立ち寄れる店やなじみの店が少なく、ならではの思い出になりにくい。

● 幹線道路による分断で歩いて回遊しづらい

当該エリアは周囲３km と広く、大街区が線路及び幹線道路により区分されており、ヒューマンスケールでないことから、回遊する気持ちになれない。

コミュニティ からみた課題

● 新旧居住者～来訪者が交流でき、まちを共感できる場づくり

新たな住宅開発による新居住者と既成市街地を中心としたコミュニティとのつながり、図書館やアリーナ、グランシップなど、多様な文化施設からなるテーマ型のコミュニティとの交流の場を創出することにより、まちに関わるファンを増やす。

提案の方針

東静岡の特性を活かし

【都市交通】誰もが移動しやすいまちづくり（テーマ❶）
Point❶ 移動円滑化に資する交通機能の強化 ― 回遊性を高め、ヒト・モノ・コトをつなぐ

静岡市の愛着を生み出す

【土地利用】多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり（テーマ❷）
Point❷ ヒューマンスケールをつくる土地利用 ― ヒューマンスケールで楽しむ環境を創出

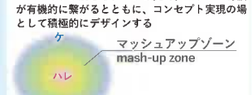
【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換（テーマ❸）
Point❸ まちづくりの機運醸成 ― 交流促進で市民 / 企業 / 来訪者等の居場所づくり

東静岡駅周辺エリアの将来像

●ゾーニングの考え方

❶マッシュアップゾーンのデザイン

ハレとケが混ざるゾーンと捉え、エリア・施設が有機的に繋がるとともに、コンセプト実現の場として積極的にデザインする



❷交通モードの整理

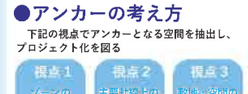
広域的な移動から歩行体験の促進のグラデーションの中で、キャパシティと目的から交通モードを４パターンで整理する

❸既存機能・資源ベースト

既に形成されている沿道施設や居住空間における導入機能に根ざしたゾーニング

●アンカーの考え方

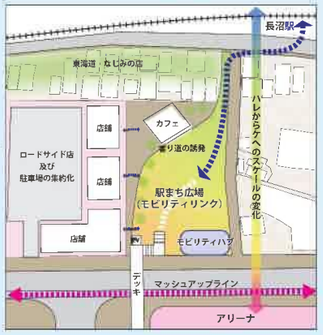
下記の視点でアンカーとなる空間を抽出し、プロジェクト化を図る



ヒューマンスケールをつくる土地利用 －コンテンツの創出－

日々をまちで過ごす住民には、ヒューマンスケールな居場所や多様なコミュニティ（コンテンツ）が必要となる。また、その居心地の良さは来訪者の「行ってみたい」につながる。

特に肝になると考えた東静岡駅⇔長沼駅間のデザインを例示するとともに、区画整理事業により大街区で中心部が構成されるまちで、ヒューマンスケールを実現する土地利用のアイデアと方策を示す。



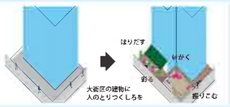
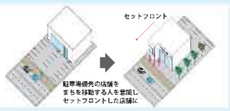
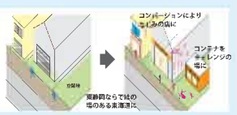
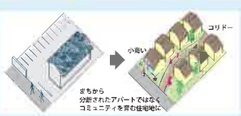
●東静岡駅と長沼駅をつなぎ・結ぶ駅まち広場の整備

東静岡駅と長沼駅は「国道１号線」・「小路・狭路」の２つで分断されている。２つの交通網をつなぐことは、まちの回遊性向上に加えて、静岡市全体での回遊にも寄与する。

東静岡駅から繋がるペデストリアンデッキが国道を超えた先に、モビリティハブを併設する広場を配置することで、自由に過ごせる居場所がまちなかでの回遊性を高める。

土地区画整理事業を実施する際、併せてロードサイド店を集約することで、広場と店舗の関係も構築する。なお、ハレからケへのスケールダウンを感じられる空間は東海道沿いの小規模宅地の地権者数を減らす意味合いも持つ。

●ヒューマンスケールな土地利用のアイデアと実現のメソッド

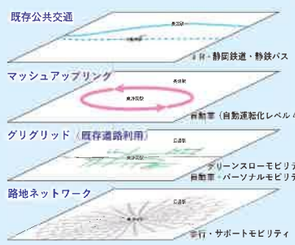
	ヒューマンスケールを創出するアイデア	コンセプトダイアグラム	実現方策
ハレのデザイン	**❶大街区の建物をふと佇む居場所に** 大街区でヒューマンスケールを獲得に向け、佇みたくなる外構デザインや商業機能（コンテンツ）の充実、など、グランドレベルを充実することで魅力ある街並みを実現する。		**①規制型と誘導型を組み合わせた市場の誘導** グランドレベルのあり方を示すガイドライン等の策定、魅力ある建物計画等への容積率の緩和や不動産取得税の減免等のインセンティブを得られる制度創設により、民間の工夫を触発する。
	❷ロードサイド型店舗をヒューマンサイドに マッシュアップリングが接する幹線道路沿いの店舗を、歩道沿いにセットフロントさせたり、複数店舗の再編により、駐車スペースの集約することで、道すがらにお店を楽しめる空間を実現する。		
	❸東海道の空き店舗等をなじみの店に 長沼駅に隣接し、まちの歴史のあとかたを感じる比較的ヒューマンスケールな東海道沿いの空き店舗の利活用を推進し、デッキを歩いて行ってみたい寄り道先を創出する。		**②用途指定型補助金と人材バンク両輪での空き家活用** 所有者や利活用候補者をストックするとともに、エリア及び商業用途指定型の空きや改修補助金を創設し、利活用を推進。
ケのデザイン	**❹工場跡地を地域愛が育まれやすい住宅地に** 工場跡地や田畑のアパート化などが進んでいる南側エリアに、居心地の良いコミュニティや来訪者がふらっと寄ってみたくなる小商いのある住宅地を創出する。		

移動円滑化に資する交通機能の強化 －都市基盤の構築－

東静岡周辺エリアの交通体系を再編するとともに、将来必ず訪れる自動運転化レベル４への順応を見越した交通機能の強化（都市基盤の構築）を図る。

このエリアは、土地区画整理事業により大きな街区で構成され、交差点が少なく、広い幅員の道路構成であるため、自動運転化レベル４との親和性が高い。このことから、将来的には、大都市の広いエリアで自動運転化レベル４を導入する日本初のモデル都市としての展開を想定する。

※自動運転レベル４とは、特定の条件下で車のすべての操作をシステムが担う、いわゆる「完全自動運転」を指す。



想定する移動手段

広域や人口集中するエリアから多人数を一度に輸送し、東静岡に引き込む

東静岡駅周辺エリアを一体的に移動できる新たな移動手段としてまちにインストール

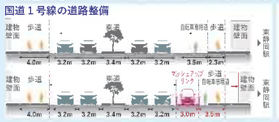
東静岡駅周辺エリアを網羅的、そして自由に移動できる既存道路（グリッド）にグリーンスローモビリティが走る

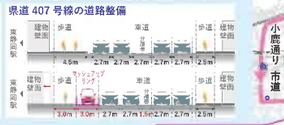
建物のすき間の路地や広場空間を縫うように移動できるヒューマンスケールな歩行空間を緩やかにつなぐ

●（仮称）東静岡マッシュアップリングの整備

将来必ずまちなかを走ることになる自動運転化への順応を見据え、走行レーンの早期整備を進め、自動運転化レベル４の試験的導入から継続的な運用に向けて、始動する。

エリア周囲の市道・県道・国道を対象に、反時計回りに周囲できる走行レーンを整備し、自動運転化レベル４の試験導入までの間は、自転車等の走行レーンの暫定利用とする。





●モビリティリンクの整備

公共交通（鉄道、路線バス）、自家用車、自転車、新たなモビリティや自動運転化への対応など、それぞれの移動距離や目的に応じた移動手段を選択できるモビリティハブを整備する。ここは、異なる移動手段がリンクする場であるとともに、人と人がリンクする場でもある。よって、人々の活動空間や商業空間としての土地利用が、そのときどきの必要に応じて、変容する空間となる。

また、モビリティリンクに停車するコンテンツの車によっても、モビリティリンクは変化し続ける。モビリティリンクはそのようなまちづくりの触媒としての役割を全うする。

自動運転化レベル４の実現による移動概念の変化

自動運転化により、車内の空間はコンテンツの空間になります。５～15 分程のコーヒーカップや観覧車に乗るような軽い気持ちで、多様なコンテンツを楽しむ新たな移動の展開が考えられます。

●長沼駅～アリーナ～東静岡駅～県立図書館をつなぐデッキ整備

東静岡駅に加え、静岡鉄道 長沼駅からの人流にも耐えうるペデストリアンデッキを整備し、各ゾーンを豪快かつ緩やかにつなぐ。

まちづくりの機運醸成 －モビリティリンクでコミュニティを育む－

将来的にモビリティハブとして機能するモビリティリンクは、暫定的にコミュニティ形成の場として活用する。

市民や事業者、企業等のチャレンジを通じたまちづくりへの参画のきっかけの場として活用し、想いをもつプレイヤーが集まることで、コミュニティの形成を図る。

地域住民や来街者との交流も生み出し、チャレンジの機運に触れることで、まちづくりへの興味・参画を促す。

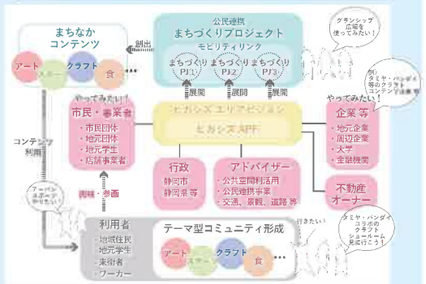
●チャレンジの機運を高める公民連携プラットフォーム構築

市民や事業者、企業等のチャレンジを後押しし、目指す都市構造の実現と愛着形成に向けて、東静岡の様々な主体と連携する「ヒガシズ エリアプラットフォーム」（以下、ヒガシズ APF）を立ち上げる。

ヒガシズ APF が描く「ヒガシズ エリアビジョン」に基づき、行政やアドバイザー、不動産オーナー等とも連携しながらまちづくりプロジェクトを継続的に展開し、まちなかに様々なコンテンツを創出する。

まちなかコンテンツを通じて、各テーマに興味のある地域住民や来街者等との交流が生まれ、コミュニティを形成する。

「私もやってみたい！」というような東静岡への想いが溢れる新たなプレイヤーを巻き込んでいくような、チャレンジの機運を高める好循環を生み出す。



●組織体制の構築と公民連携の取組の実施プロセス

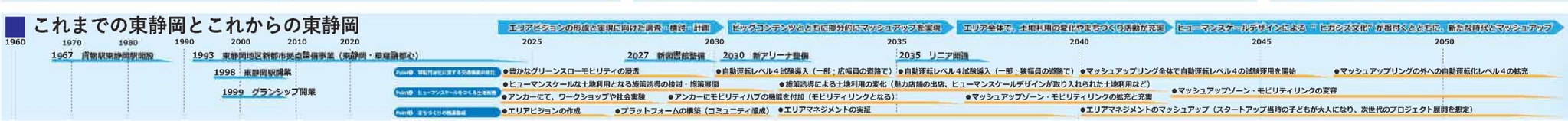
●チャレンジャーを育む教育プログラムの展開

地域の小中学生を対象に、将来、チャレンジャーとしてまちづくりに参画する機運を高めるような、まちづくり教育プログラムを展開する。

子どもの時にまちづくりに関わることで、静岡市・東静岡への愛着を醸成し、将来的にまちづくりの担い手となってもらうことを狙う。

地元企業及び小中学校授業と連携した教育プログラムも展開し、企業及び保護者（大人）のまちづくりへの参画機会の創出を図る。

これまでの東静岡とこれからの東静岡



「新たな文化・スポーツの拠点づくり」
「快適で住みよい住環境づくり」につながる

“ヒガシズ文化”の形成

東静岡の土地が紡いできた歴史を、
新しい時代へと紡いでいく
コミュニティガーデンと**サイクリングロード**

南口の新県立中央図書館と、北口のアリーナの完成に伴い、
東静岡地域外や県外からの訪問者の増加が予想されます。
近隣住民のみではなく、住民以外の訪問者にとっても親しみやすく、
気軽に参加・利用することができる、空間を提案します。

コミュニティガーデン

住民主体で、発展・運営・管理を行うことで行政任せではない、「主体性のあるコミュニティガーデン」を目指します。低未利用空地や既存公園の一部を活用し、各コミュニティガーデンごとに、特定の用途を定めずに、ガーデン利用者が主体となって運営方針を決めていくことで、それぞれのコミュニティガーデンごとに、独自の特色やアイデンティティをもたらすことのできる空間を提案します。

サイクリングロード

東静岡が目指す、「場の力を活かした」まちの活性化を助長することを目指します。
空き地や既存公園内に設けられたコミュニティガーデンと、各施設（図書館や美術館など）をつなぐように設置します。
また、レンタルサイクルポートをコミュニティガーデン内や、サイクリングロード上に設けることで、
近隣住民だけでなく、東静岡地区外から訪れた人々が気軽に利用できるよう計画します。

※視点番号（募集要項P4より）：①②③④

コミュニティガーデンと**サイクリングロード**の発展イメージ

近隣大学の研究や
サークル活動の場としての利用

▶ **大学**生主体の活動に
近隣小学生の参加を促す

▶ **近隣住民の自由な参加と
主体的な運営**

▶ **サイクリングロードの整備**

▶ 東静岡地区外からの
訪問者の利用の受け入れ

近隣住民の主体的な参加や運営方法を確立してから、地区外の訪問者の利用を促すことで、
包括的で不満のない発展を目指します。

コミュニティガーデンの活用イメージ

子どもたちにとっての
未来へとつながる、
きっかけとしての空間

子どもたちが、いろんな世代と関わり、学ぶことで将来に希望を抱くことができる場を提案します。

近隣住民にとっての
防災意識へとつながる、
学びや啓発としての空間

防災に関するセミナーの開催や防災ベンチ設置など、近隣住民の防災意識を向上させる場を提案します。

訪問者にとっての
東静岡の魅力の理解へとつながる、
発見と体験としての空間

サイクリングロードの途中に設けられたコミュニティガーデンに、気楽に参加することができ、近隣住民との交流を楽しむことのできる場を提案します。

ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科3年 青島愛花

イメージ図（ChatGPT）

期待する効果

「学生の居場所」として広く認知されるような場を現在の東静岡には無い規模でつくることで、通学という形で地域に関わっている学生と、学生との関わりを作りたい企業・地域団体との繋がりやそこから端を発するイベントやプロジェクトの基盤とする。
電源やフリーWi-Fiなど、学生にとっての機能的な利用価値を強めることで図書館での学びや地域活動への意欲の如何をとわず多くの学生が集まる場として成立させる。日常的な利用を通して、まずは学生側が東静岡を「自分の居場所」として認識するきっかけとする。
現状地域に存在している「学生の関わりしろ」に関する情報の集積地としても機能することで、情報が学生層に伝わらない課題を解決する。

提案内容

学生が留まる場所を作ることで、東静岡を「居場所」にする

新図書館内に学生が電源とWi-Fiを自由に利用しながら作業できるスペースを立ち上げ、通学中に利用できるサードプレイスとして周辺大学学生の利用をねらいとする。
一般的なコワーキングスペース的な利用を可能とする一方で主目的とはせず、他大学生や静岡在住の社会人と交流する機会を日常的に設ける。
それにより、最終的には東静岡を「通り過ぎる場所」ではなく「在学中・卒業後の居場所」として見る学生を増やす。

スペースの活用方法

- 企業と学生のコラボプロジェクト
- 学生が地域活動の発案側としてテーマを設定し外部にプレゼン、フィードバックを受ける機会を作る
- インターンシップやイベント運営等、情報を自由に閲覧して発信元と関わりを得ることが可能なシステム
- 就職活動中の大学生と地方在住の若手社会人による座談会
- 学生プロジェクトを支援する企業スポンサーシップ
- 地域イベントの企画運営ワークショップ
- 図書館のリソースを活かしたビジネススキル講座

マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり

・東静岡が目指す「共創」をスピーディに促進するため既存施設の有効活用
・約380万人／年が来館する大型商業施設としての、情報発信と市民活動のハブ役割
・天候に左右されないイベント空間の提供

提案した視点番号：①・②・③・④

マークイズ静岡がお手伝いできること

●地域のつながり強化をめざすイベント実施
●「まちを楽しむ」小さな取り組みを受け止める空間の提供
・自治体、公的機関との連携
・学生が学んだことを披露る機会の提供
・市民が「気軽に」「誰でも」活発に文化に触れる機会の提供
●東静岡エリア情報（市内含む）横串しの情報発信拠点の設置
・図書館・アリーナのオープン前（ティザー期）の告知協力及び機運の醸成協力
●静岡市（行政・民間）のSDGs取組協力
●自然災害時の協力

公共的空間への提案

●イルミネーション装飾・映えスポットの設置
（ペデストリアンデッキ他）
●プロジェクションマッピングの上映
（マークイズ静岡・グランシップ他）
●クライミングウォールの設置、パルクール等のイベント実施
（グランシップ・グランシップ公園）
●ファミリーが楽しめる要素の拡充
（東静岡スマイル公園）
●周辺移動を楽にする移動手段と貸出拠点の整備
（パルクル・LUUP等のシェアサイクル・電動キックボード）

その他取り組み提案

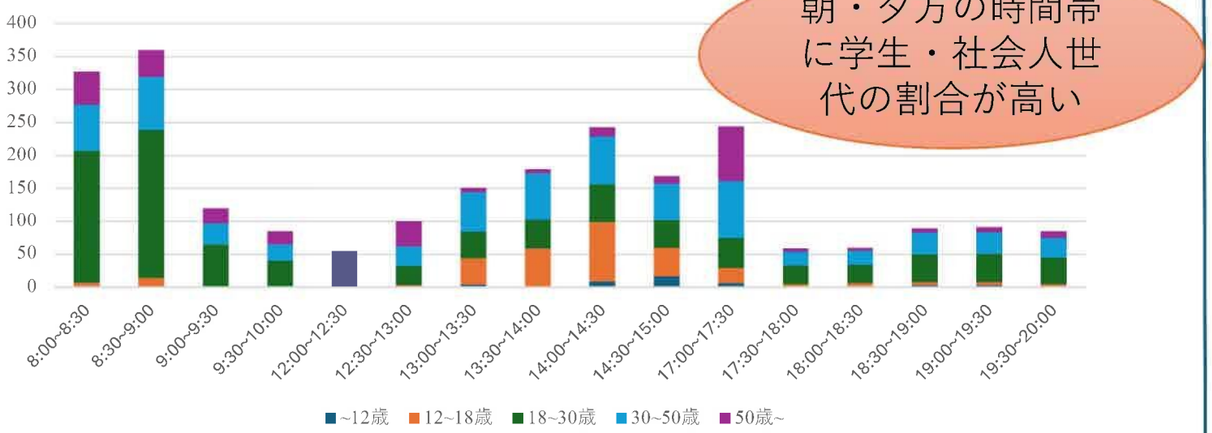
●世界に誇る地場産業「プラモデル」をBANDAI・タミヤ等と連携した魅力発信
●健康増進を目的としたモールウォーキング
（ウェルビーイング）
●「子育てのしやすさ」視点で保育施設の設置や子育ての悩みを相談できるサービスの充実
●シルバー人材の積極的雇用
●周辺施設利用時における駐車スペースの有効利用化

グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」の開催
～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～

＜対応する東静岡地区の街作りのテーマ＞
②若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換　④多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり

1. 提案背景

東静岡南口駅前　歩行量調査



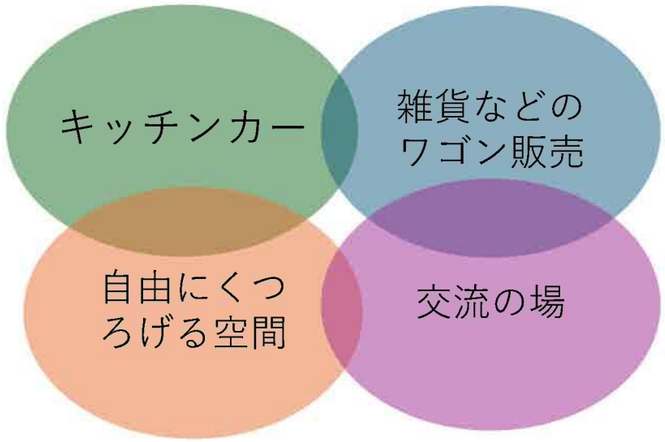
通勤・通学で東静岡駅を利用する社会人・学生たちにとって新たな目的を作ることが賑わい創出につながる

3. アピールポイント

- **滞在時間を増やす**ことで経済効果が得られる
- 週替わりでお店を変えることにより、売上・客数を比較することで**駅を利用する人たちのニーズ**を把握できる
- 東静岡駅南口の**集客性**を測ることができる
- 東静岡駅南口を**「賑わう場所」**というイメージ付けができる
- 公園で開催することにより、**多様な過ごし方**ができる

2. グランシップ前芝生公園「おかえりマルシェ」

1か月間、毎週金曜日の夕方から夜にかけて、学校や会社帰り、お買い物帰りに東静岡駅を利用する人たちをターゲットにしたマルシェを週替わりで開催



4. 公園×商業施設の実現に向けた長期的な視点

屋上　公園
2階　商業施設
1階　飲食店

＜特徴＞
- 開放的な空間
- 静岡の食文化を発信
- 人々にとってのサードプレイス

公共の場と商業を組み合わせ、性別・年齢にとらわれない新しい価値と体験を提供

長期的には、街の回遊性を高め、市外からの集客も見込めるような施設の実現を目指す

安心してボール遊びのできる公園にするための工夫

～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～

②【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

【アピールポイント】

東静岡駅付近の小学生1200人以上にアンケートを実施！小学生の「あったら嬉しい」を叶える遊び場

【提案する施設】

東静岡スマイル公園・東静岡１号調整池

池田東静岡公園・東静岡２号調整池

【特徴】

- 大型の滑り台が人気
- 幼児から小学生まで楽しめる遊具
- 駅や商業施設が近く、便利な立地
- 近隣の調整池は、大雨時以外は活用されていない

【アンケート結果】

200名以上の小学生が回答

ニーズ

サッカーやドッジボール等のボール遊びをしたい

課題

- 思う存分ボール遊びができない
- 衝突による怪我の危険性

休日は混雑し、ボール遊びには危険が伴う

安心安全にボール遊びができる専用スペースが必要

【提案内容】

- ボール遊び専用スペースの設置

（ネット等でスペースを区切る）

イメージ：MIYASHITA PARK屋上公園

- 「1グループ15分」等の時間制限を設ける
- 通常時の調整池を、公園以外の遊び場として活用

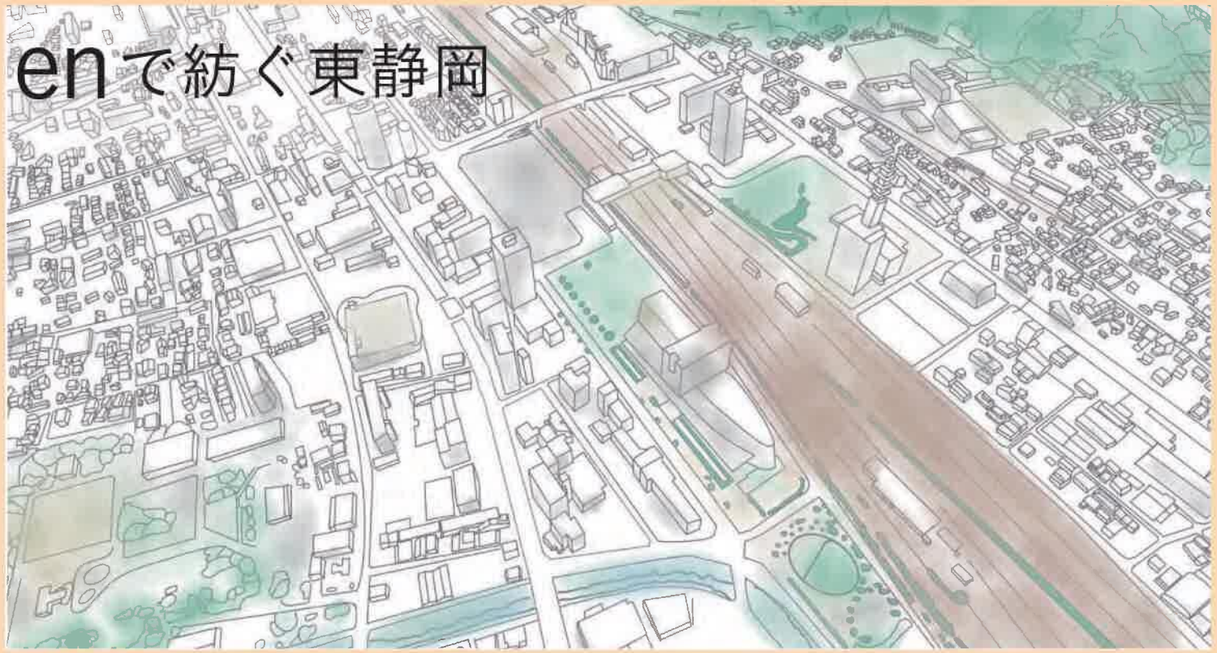
【設置場所】

スマイル公園グラウンド　　東静岡2号調整池

【期待できる効果】

- ボール遊びによる**怪我の危険性の減少**
- 安全に思う存分ボール遊びを楽しめる
- **調整池の公共空間としての有効活用**

enで紡ぐ東静岡



1 コンセプト

東静岡の都市空間の特徴

東静岡は幹線道路や鉄道により東西の動線が整備されており、公共交通機関や車でのアクセスがよい場所にスポーツジムや複数の公園や広場、グランシップ、マークイズ、温浴施設などがあり、運動やイベントなどに優れた空間が広がる。その一方、車社会であり、国道一号線沿いには自動車販売店も多くあり駐車場も多くある。また車通りも多いためウォーカブルとは言えない。

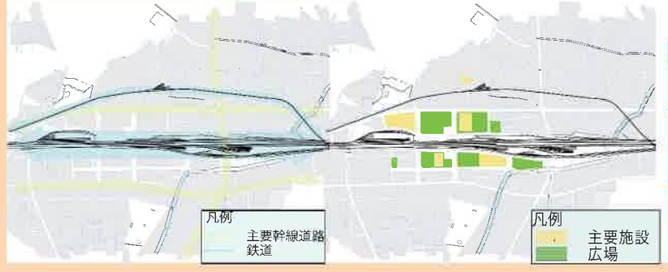
東静岡の魅力と課題

東静岡の魅力

- スポーツの関連する店舗・施設が多くある
- 地区の主要な建物が駅周辺に集積している
- 駅周辺に広場や公園が多く点在している
- 学生や子ども連れの家族の姿が多くある
- 歩道が広い（活用出来そうな空間が多くある
- 交通の便がいい
- 自転車移動の住民が一定数いる

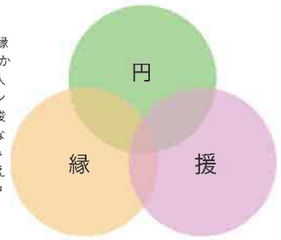
東静岡の課題

- 飲み屋が少ない
- 広場に人が少なく、活用があまりできてい
- 滞留空間、植栽、日影が少ない
- 改札出てすぐの空間の利活用
- 駐車場が多い（車社会）
- 新幹線の騒音
- 線路＋車両基地、道路による南北の分断



en

enは東静岡の将来に必要な３つの"えん"の"縁・円・援"である。東静岡の魅力を大いに活かし、現状の課題だけでなく静岡県が抱える人口減少という課題を解決するためにグランシップやマークイズ等の既存の施設や新たに竣工予定のアリーナや図書館のハードだけでなく、"en"からつながるソフト面での取り組みが重要である。これから先30年の東静岡考える際、"en"が１つずつ完成しこのベン図の中心が東静岡となる願いを込めた。



紡ぐ

紡ぐとは繊維を合わせて糸を作ることに準えて、何かを集めて一つのものを作る時の表現として用いられる言葉であり、3つの"en"やハード・ソフトが集まり東静岡を形成し、すみやすいまちづくりを目指す。

Ⅰ文化・スポーツの拠点としての街の新たな価値づくり
Ⅱ若者や子供が夢や希望を持てる街への転換
Ⅲ誰もが移動しやすいまちづくり
Ⅳ多様な人々が訪れたくなるような魅力的な空間づくり

コンセプトの実現手法

円
提案内容：コミュニティバス、モビリティハブ、ペデストリアンデッキ
回遊性の向上と南北動線の強化を目的とし、多様な人々が訪れたくなるような魅力的な空間づくり

縁
提案内容：エリマネ、図書館、グランシップ
東静岡の豊かな歴史・文化・自然から新たなコミュニケーションの場を創出し多様な年代が学ぶ場を作る

援
提案内容：アリーナ、スポーツチームの誘致、宿場町
地域住民と来街者を繋げるきっかけとなり、東静岡に新たな観光資源となり、地元経済の発展を促す

2 エリア

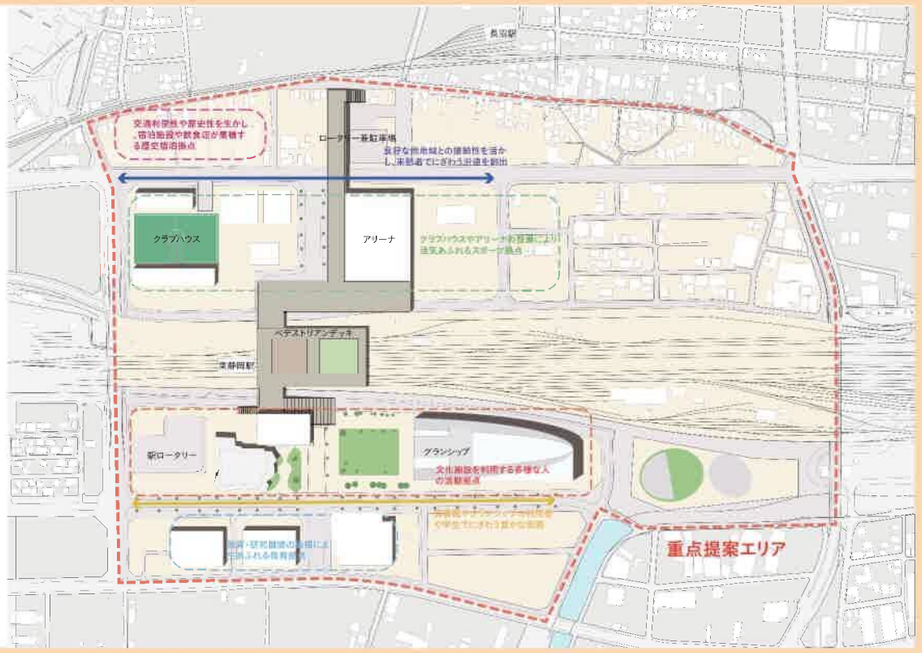
A. 歴史ゾーン
宿場町だった歴史を踏襲し、国道１号沿いにホテルや飲食を集積することで来街者とまちを繋ぐ。
また、飲食店を多く設けることで、来街者の拠点を作るとともに、かつての賑わいを蘇らせる。

B. スポーツゾーン
現在の清水区にある清水エスパルスのクラブハウスを東静岡駅前に移転させることで、周辺住民の方はもちろん、全国のサポーターが集まる「スポーツの拠点」をつくる。さらに、アリーナの横には、ペルテックス静岡の事務所及び選手寮を向け、「スポーツの拠点」をつくる。

C. 文化ゾーン
新県立図書館やグランシップなどの文化施設を集積させ、その付近には自然豊かなオープンスペースを点在させることで、人々の交流と憩いの場をつくる。

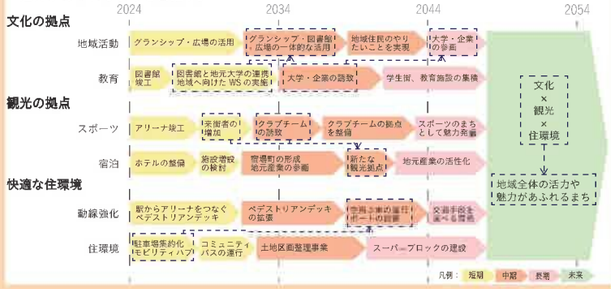
D. 教育ゾーン
オフィス及び大学などの教育施設を集約し、食・遊・憩などの多彩な機能を有するミクストユースをつくる。
ワーカーや学生が増えることで、多様な文化やイノベーションの促進及び地域経済やコミュニティの活性化が見込まれ、その結果まちの魅力の向上が期待できる。

E. スーパーブロックゾーン
通過交通や車社会からの脱却を目指し、リンク＆プレイス理論を用いて道路の特性を把握したうえで、道路の付け替えを行う。その際住宅街はプレイス機能を持たせ、スーパーブロックを計画し、住みやすいまちを実現する。



3 事業スケジュール

文化・観光の新たな拠点であるとともに、快適な住環境を整備し、地域住民から来街者まで心地よいと感じる空間を提供。最終的には、文化・スポーツ・住環境が連携をとり、地域全体の活力や魅力があふれるまちを目指す。

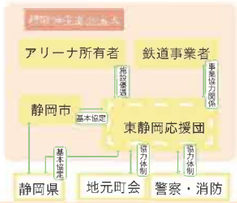


en を紡ぐ仕組みの構築

駅周辺事業者や市民や来訪者の活力を活かし、東静岡らしいまちづくりを躍進のため、多様なステークホルダーと連携する①プラットホーム②エリアマネージメント団体を組織。協議により、東静岡に根付く人々の想いを共有し、縁をはぐくむ。

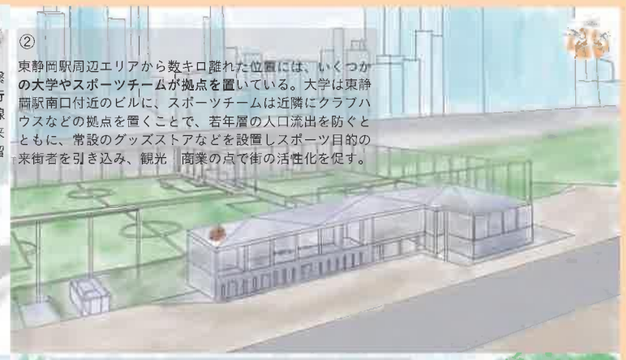
まちづくりをサポートするプラットフォーム
～まちサポフィールド～

まちサポフィールドの実行主体
～東静岡応援団～

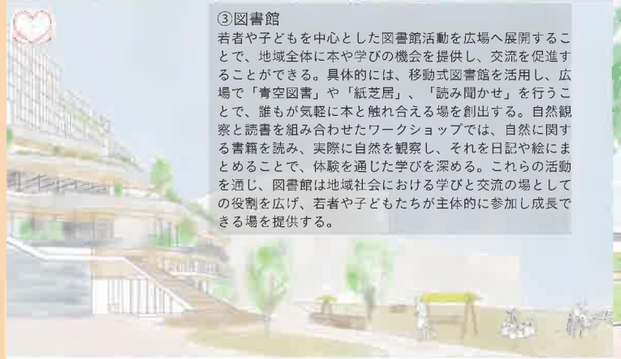


4 提案

①富士見デッキ
駅から街へ向かう東静岡の文化・スポーツの拠点となり、新たに竣工予定のアリーナや図書館の他に長沼駅までを繋ぐ新たな軸線を形成する。駅周辺の通過交通に対する歩行者の安全性の確保とともに、駅周辺の主要施設同士の動線となり、防災拠点としての役割も担うことができる。将来的には南北のペデストリアンデッキの延伸や、駅前の滞留空間・にぎわいの創出が期待される。



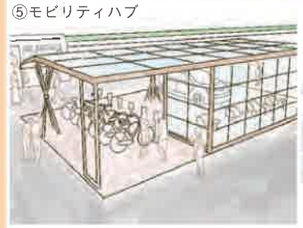
②
東静岡駅周辺エリアから数キロ離れた位置には、いくつかの大学やスポーツチームが拠点を置いている。大学は東静岡駅南口付近のビルに、スポーツチームは近隣にクラブハウスなどの拠点を置くことで、若年層の人口流出を防ぐとともに、常設のグッズストアなどを設置しスポーツ目的の来街者を引き込み、観光・商業の点で街の活性化を促す。



③図書館
若者や子どもを中心とした図書館活動を広場へ展開することで、地域全体に本や学びの機会を提供し、交流を促進することができる。具体的には、移動式図書館を活用し、広場で「青空図書」や「紙芝居」、「読み聞かせ」を行うことで、誰もが気軽に本と触れ合える場を創出する。自然観察と読書を組み合わせたワークショップでは、自然に関する書籍を読み、実際に自然を観察し、それを日記や絵にまとめることで、体験を通じた学びを深める。これらの活動を通じ、図書館は地域社会における学びと交流の場としての役割を広げ、若者や子どもたちが主体的に参加し成長できる場を提供する。

④グランシップ
グランシップ前の豊かな広場と歩道幅員を活かし、多様な交流空間を創出する。グランシップという文化の拠点であり集客を見込めることから地元住民の居場所作りや活動をする場として、マルシェでのお茶や静岡おでんなどの地元の名産品やハンドメイドの販売や、屋外映画館などファミリー向けのイベントを開催し、在住者だけでなく、外から移住してもらうキッカケとなる機会を多く創出する。

⑤モビリティハブ

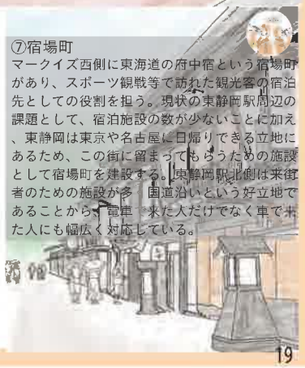


多種のマイクロモビリティを配列し、車通りを減らすだけでなく、車を持たない学生や来街者のためのハブを複数儲けることで東静岡の環境負担を減らすとともに、利便性が増し、経済を活性化させることに繋ぐ。東静岡の課題である国道の交通量や駐車場の多いという点の改善や未来の交通手段への対応へのシフトが必要であるため、モビリティハブを整備する。

⑥スーパーブロックと駐車場整備

長期的な提案として都市計画道路制度を活用した広域なゾーニングである道路付け替えを提案する。「リンク&プレイス理論」を用いて道路空間を評価し、通過交通と歩行者優先道路を分けることで幹線道路以外の駅周辺道路の自動車交通量を減少させ、歩行者量を増やすことで東静岡駅周辺エリアから活性化の輪を広げる役目を果たす。

⑦宿場町
マークイズ西側に東海道の府中宿という宿場町があり、スポーツ観戦等で訪れた観光客の宿泊先としての役割を担う。現状の東静岡駅周辺の課題として、宿泊施設の数が少ないことに加え、東静岡は東京や名古屋に日帰りできる立地にあるため、この街に留まってもらうための施設として宿場町を建設する。東静岡駅北側は来街者のための施設が多く、国道沿いという好立地であることから、自車・来た人だけでなく車で来た人にも幅広く対応している。



東静岡駅は 1998 年に開業した静岡市駿河区に位置する JR 東海の鉄道駅です。静岡市の市街地東部にあり、周辺には商業施設や文化・スポーツ施設が集まる、近年発展の進むエリアです。しかし、静岡駅と隣接していることもあり、東海道本線利用者の多くが静岡駅を選ぶ傾向があります。また、駅周辺にも関わらず、モータリゼーションが中心であり、駅や周辺の地域から訪れた歩行者のための交通インフラ整備が不十分であると考えます。
東静岡駅は駅周辺ながらも広い空間を持つ発展可能性を秘めたエリアです。この利点をもつ東静岡駅には静岡駅とは違った魅力を持つまちづくりが必要です。そのためのキーボードは歩きたくなる駅です。（視点番号①～④）

てくてく東静岡

CONCEPT

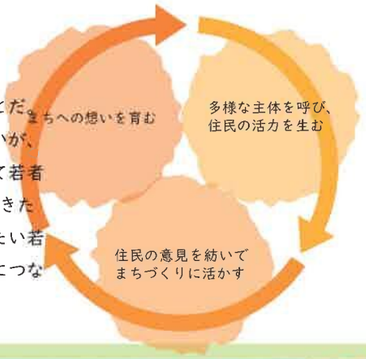
静岡市の人口減少の一つには、若者離れがあると考えられている。それは若者を必要とする環境がない、もしくは知ってもらえていないことが原因だと考えている。この東静岡では、今後のまちづくりによるポテンシャルを生かして若い世代を主体とするパブリックスペース則ち魅力的なテリトリーをつくり、静岡の活力になってもらうのはどうだろうか。（視点②､④に該当）

ISSUES

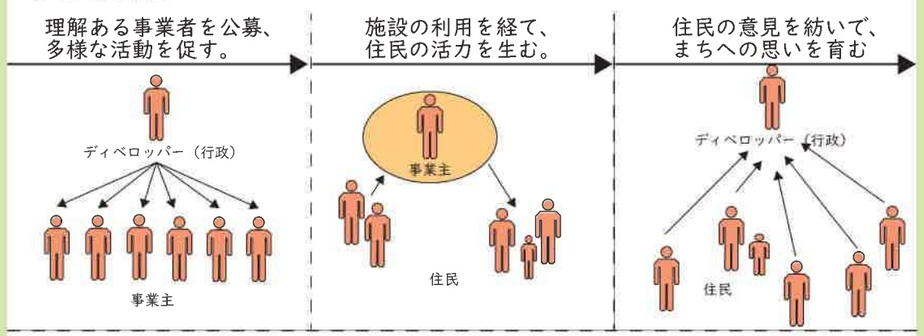
- 静岡駅への人の密集化
- 若者が自由に集まれるコミュニティスペースが少ない
- 道路が整備されているが、車両の交通量が多く、通学路の不安全
- 駅周辺にも関わらず、空き地として放置されている部分がある
- 自転車、バスなどの２次交通がスムーズでない
- 地域間の不均衡

TOWN DEVELOPMENT STRATEGY

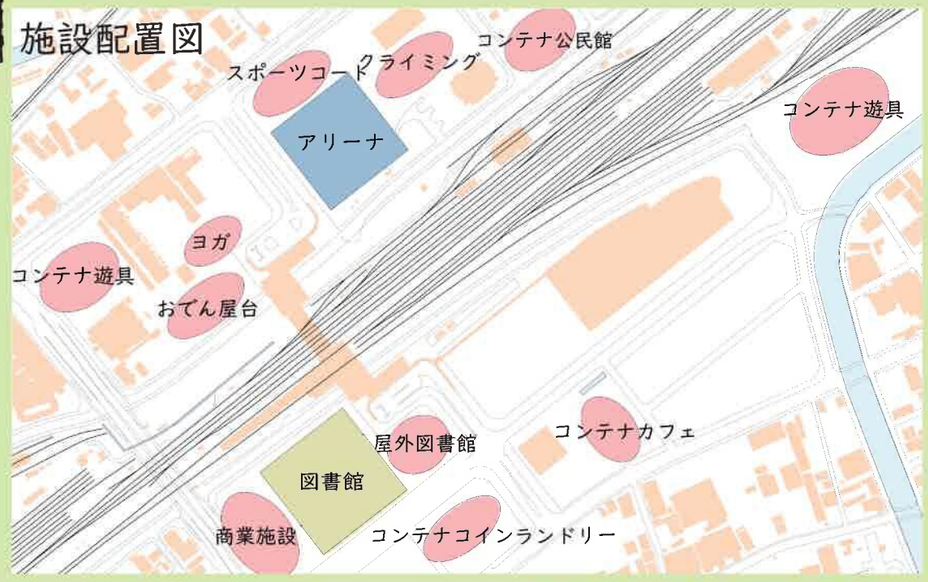
今回の提案は、町に至る所にある駐車場スペースを様々な趣味嗜好の公共空間にしようということだ。この町はスムーズな自動車交通や十分に確保された駐車場がある。言い換えると「車で行きやすいが、行く価値がない場所」となり、魅力のない場所と認知されてしまう。しかし、この状況を利用して若者を中心としたパブリックスペース、テリトリーをつくることで、地域内外の人々が、「居たい、歩きたい、気になる」という要素を入れることができる。このテリトリーは、地域住民や事業に挑戦したい若者などを主体として、関わりやすい体制をつくることで、意見を汲み取りやすく、まちへの関心につながるのではないだろうか。



SCHEME



ディベロッパー（行政）がテリトリーに出店もしくは、ワークショップを目的として、土地使用料の低減などのメリットを報酬として公募し、活動を増やす。
テリトリーを訪れることで経済活動、文化活動を活性化、その人だけの居場所を見つけることを目的とする。利用者からの改善に向けての意欲増進に繋がればなお良い。



ゆったりと時間を過ごすことができるカフェの空間が屋外まで広がっている。コンテナ同士が干渉し合い、従来の箱型に施設が収まった個々の分断された場所ではなく、機能が箱型に収まらない。鮮やかな色合いのコンテナが人々の興味を引く。

アリーナの前にサッカーコートを置く。気軽に誰でもスポーツに触れられる機会をつくる。コンテナ内からも観戦できる。アリーナだけに収まらないスポーツの空間。

商業的な要素を持ち、一つ一つの広すぎないコンテナが個人に居心地の良い空間として提供される。絵本が置かれたり、小物が販売されたり、ふらっと立ち寄れる場所。

現在、東静岡駅周辺に図書館とアリーナ整備が計画されている。他にも、現在建っているマークイズ静岡やグランシップのような楽しめる施設がいくつか存在する。しかし、施設が個別で存在し、まち全体として孤立しあっているように感じる。施設をつなぐ道は広いという利点があるにもかかわらず、車社会のため、目的の施設に行った後は素通りしてしまう。
そこで、都市をつなげ、駅中心地としてにぎわいとくつろぎを提供する自然空間が必要だと考えた。具体的に、主に駐車場や空き地を利用して、新たな施設、空間を創り出す。駅周辺にも関わらず、駐車場の割合が多いため、駐車場を減らし、歩くことを優先させる。
これにより、アリーナに訪れた人、図書館に訪れた人が、そこで終わり、駅に戻るのではなく、訪れた人を止め、ここに寄ってみたい、気になるから立ち寄ってみようといった空間が生まれ、より外部からの人の滞在時間を増やしていく狙いである。

・動線計画

東静岡駅周辺の建物が多く密集しない、見渡しの良い利点を無くさないようなさまざまな施設を設置することで、ふと滞在してみたくなるような空間を散りばめることで、歩行者の動線を増やす。

・新たな空間例

a. オープンカフェ

b. ヨガ広場

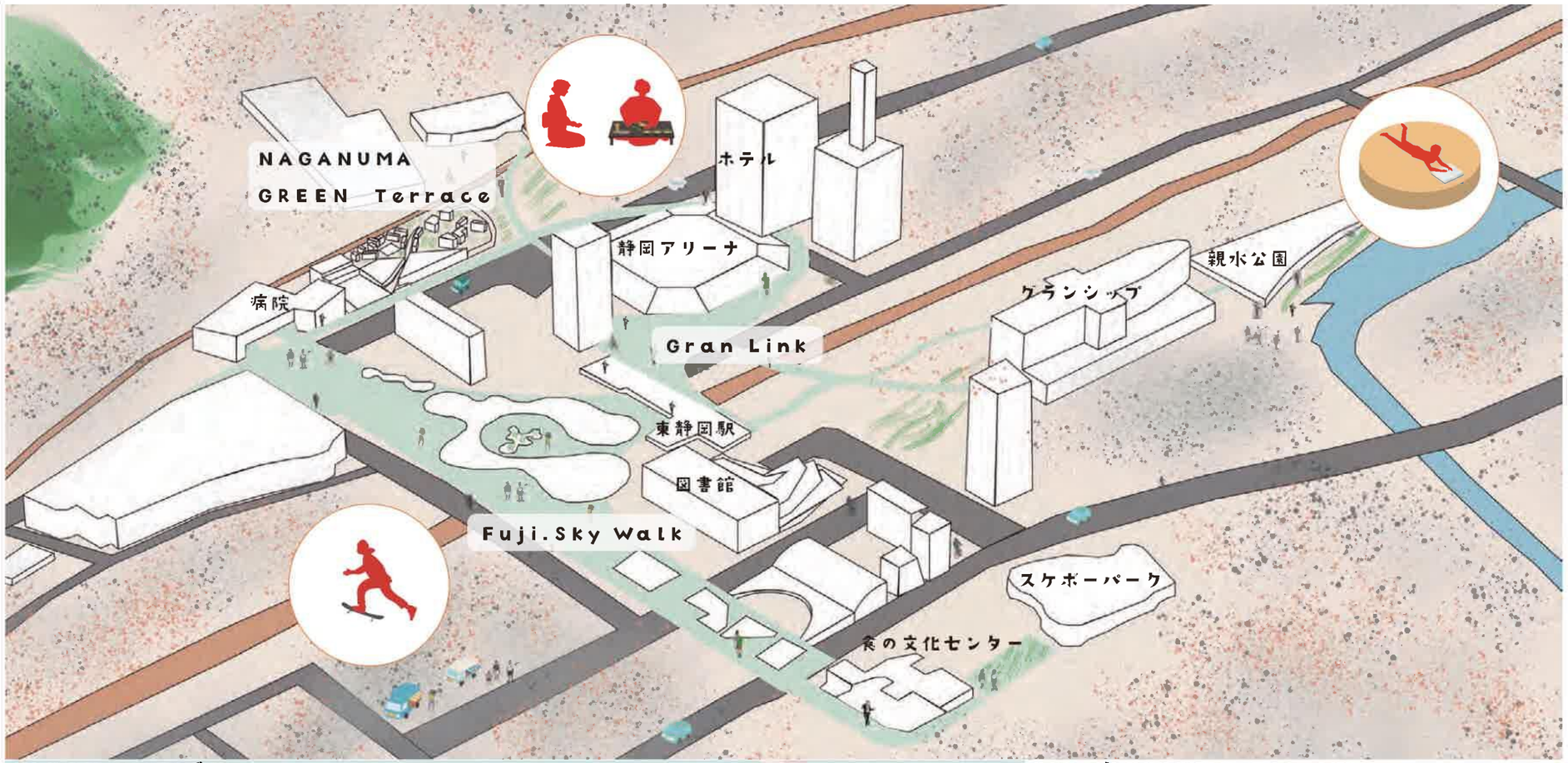
Next 東静岡

～創る・継げる・結わえる街へ～

新たにアリーナと図書館が新設することで、さらに交通渋滞加速することに対する地域住民の不安の声が上がっている。
一方で観光客が増え、来訪者や地域住民の活動域が広がり、経済効果を生み出すことも考えられる。
そこで、人々と車両の動線を明確に分け、混雑緩和を促すと共に、東静岡のＰＲとして、スポーツ、アート、食を活かした文化に関連する集客施設を設ける。
また、将来的にＩターン、Ｕターンによる人口増加を促すために、街の各所に幅広い年代層が共存できる交流の場、つまりサードプレイスを提案する。

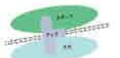
提案

- 歩車分離で、優れた回遊性のペデストリアンデッキ
- 川を流れるモビリティで交流空間の創生
- 次世代のスマートシティの構築
- 日本を代表するスポーツの発信地
- 東静岡ならではの食文化を全国に発信



エリアごとの整備方針

①文化とスポーツを結ぶデッキ
空間の連続となっていた接続、デッキを設置することによりエリアの連続性を実現。



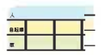
②新たな街の中心地
新たな街のランドマークとなるアリーナ。ここから前の各線まへ徒歩数分に高アクセス。

③傷病者判断
高所を組かして災害時にデッキにトリアージ場所を設け迅速な対応をします。

④災害対策の現付かせ
歩行時の足元にデザインライトを設置。災害時には避難場所への道しるべ。

⑤親水公園との関わり
河川を観光、物流の場として水辺空間を親しむ街へ。

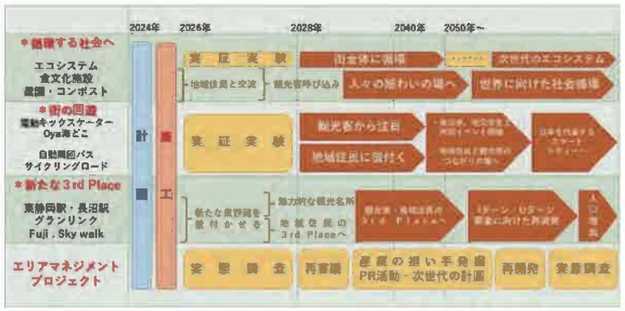
⑥親水空間を災害時にも活用
河川を物資や人々の避難経路として利用。



⑦医療施設と身近に
各医療施設をデッキで直アクセスにすることで、医療との距離を近づける。

⑧動線の三層化
歩行者、自転車、車両の動線を分離することでエリア間の移動をスムーズにします。

⑨日本最大級のデッキをサードプレイスへ
人を流れが多いデッキに特産品を陳する場。休憩できる椅子や広場のような魅力的な施設の設置で人々が集まりたくなる空間へ。



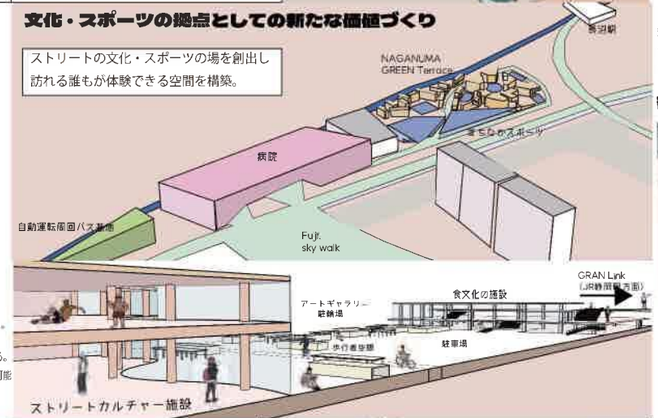
誰もが移動しやすいまちづくり

JR東静岡駅及び長沼駅を結ぶグランリンクを交通交差点として、各交通手段への波及性をもたらす。

交通の垂直交差により駅周辺に立体的な景観を創出し、渋滞緩和と住み分けを行う。

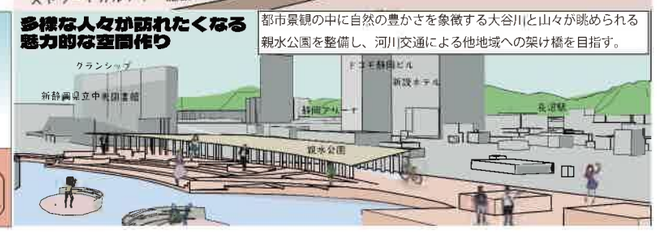
文化・スポーツの拠点としての新たな価値づくり

ストリートの文化・スポーツの場を創出し訪れる誰もが体験できる空間を構築。



多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間作り

都市景観の中に自然の豊かさを象徴する大谷川と山々が眺められる親水公園を整備し、河川交通による他地域への架け橋を目指す。



交通手段の多様化とステーション分布

凡例　スモールモビリティステーション　自動運転周回バス停留場

水と親しみ空間を創造し、新たな居場所の確立。

文化や技術革新の発信地として、 地域のリテラシー向上を狙う東静岡モデルの中核エリア。

次世代の商業地域とスポーツエリアの融合により、消費だけではなく交流に重きを置いたまちづくりへ。

来訪者の利便性と安心感を重視し、Ｉターン＆Ｕターン需要の見込み起源へ。

若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

NAGANUMA GREEN Terraceでは、小規模施設や店舗によるスモールアクションを起点とした地域に根付いた賑やかな動きが可能となる。駅前にはビルやペディストリアンデッキが整備されることで大規模な施設が増加していく。しかしながら、分断を生みやすくなる。そこで、ヒューマンスケールにあった住宅よりも小規模な日々のあったらいいなを実現させる工房スペースやシェア店舗を設置し、日替わりのカフェや雑貨屋を開くようなスモールビジネスを展開できる地盤を整備する。行政と民間が協働しリアルタイムの社会実験が可能となり、タイムレスなフィードバックを得られる。ボトムアップ型の地域活性化を目指しタクティカルアーバニズムを導入する。

また、NAGANUMA GREEN Terrace内にはスポーツ施設を併設し、日々の運動を行うだけではなく、人々と交流することによるウェルビーイングを目指し、目的型と交流型を兼ねたサードプレイスの創出への寄与が見込まれる。施設に機能を詰め込むのではなく、マチに溢れさせることで、活気が波及することが期待される。

循環型スマートシティ、東静岡へ

各モビリティの動力源となる電力をエリア内で賄うことにより、 環境負荷の軽減を実現させる。 静岡の豊かな自然を保護しつつ、 生活の質の向上や健康寿命の長期継続につながる。 地域に対する思いやりの向上につながり、 長期居住につながると考える。

農園
開発を段階的に進めていく上で、未利用地が発生してしまう。その土地を住民同士あるいは工事作業員の地域交流の場として農園に設ることで建設後その土地に建つ建物も受けいられやすくなる。

コンポスト
街の農園内にコンポストを設置し、枯れてしまった植物や家庭で発生した生ゴミを堆肥させる。そして、再び植物を栽培するという循環サイクルを形成し、地域社会の結束を深める。

川しるべ
陸地の交通動線を整備した上で、河川で舟運活性化への取り組みを行う。竹中工務店が提案した「海底ロボット」を、東静岡の河川に流し、納棄用途や物資提供として活用する河川を利用する新規モビリティによって、交通網の拡大を図る。

茶室
静岡県の名産品である「茶葉」を活用するために茶室を設ける。アリーナで行われる試合観戦前の隙間時間や、図書館で借りた本を読む際に利用することを考慮し、大勢の人々が利用できるように茶室を連続して配置する。地元住民、観光客問わず誰でも気軽に立ち寄れる空間とする。静岡県内の豊富な木材を利用し、権現造をモチーフにし意匠を取り入れることから静岡らしさを感じれる。

東静岡駅前巨大デッキ

コンセプト

現在、東静岡は、東静岡駅とグランシップが中心となり、子供連れの家族から学生、社会人まで様々な人が利用している。

そこには、富士山がよく見えるスポットがあったり、東静岡駅を眺望、降車する電車を見たりすることができる。しかし、東静岡駅から歩行者用ようと、北口を利用する際には、通路が長く歩く距離で遠回になってしまう。ほかにも、国道一号線を横断しようとすると、信号時間が長いことや、北口とグランシップ間を移動しようとすると、東静岡駅を経由し長遠距離で移動できないなど様々な問題を抱えている。

さらにアリーナや新県立図書館の建設により、東静岡駅が中心となり、さらに多くの車両や人が密集することが考えられる。

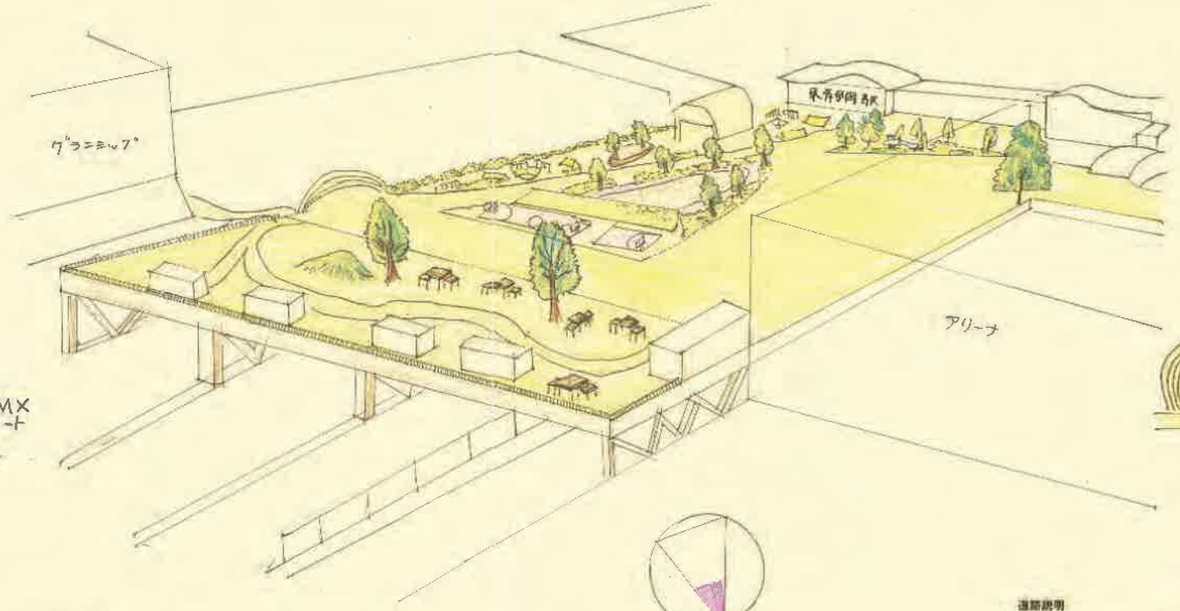
また、アリーナ予定地は元々緑豊かな公園であったため、建設されると緑や外に出て遊ぶスペースが制限されるだろう。

そこで私は、スケートボードやBMX、バスケットコート等を配置し、誰でも気軽に運動ができ、富士山もよく見えるような、東静岡駅に直接つながる巨大デッキを建設する。

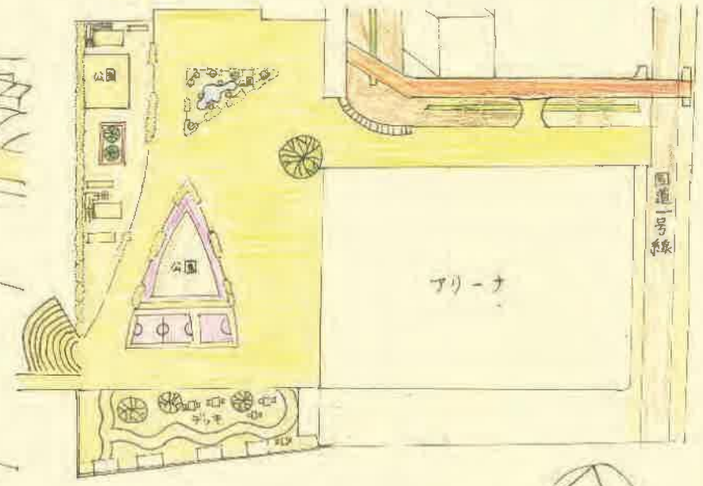
これは、アリーナでイベントが開催されるときに、主な移動手段として、開催されていないときは、緑豊かな公園として、地域住民のみならず、多くの人が利用されることが考えられる。

また、交通面も考えることから、駅北口を中心に道を二車線ずつにし、アリーナを利用する人が効率よく移動できるようにする。デッキを境に車両と歩行者の移動下段を分けることで、事故や渋滞を防ぐことができる。国道一号線を横断するまで安全に移動できるよう、大きな歩道橋も設ける。

誰もが安心で安全に移動しやすく楽しめるような空間を提案する。



全体平面図

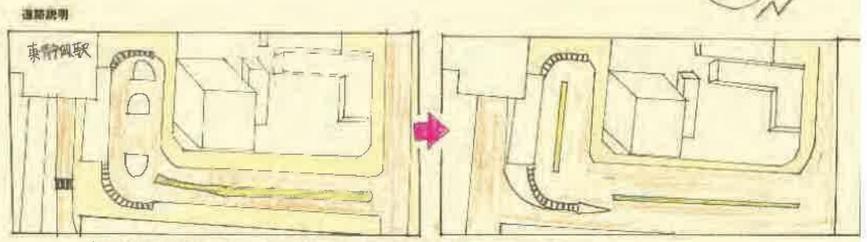


スケートボード＆BMXができる公園

オリンピックや世界大会にて多くの日本人選手が出場するスケートボード。身近でも実践できるような場所を設けることで、盛り上がるのではないかと考える。

自然豊かな公園

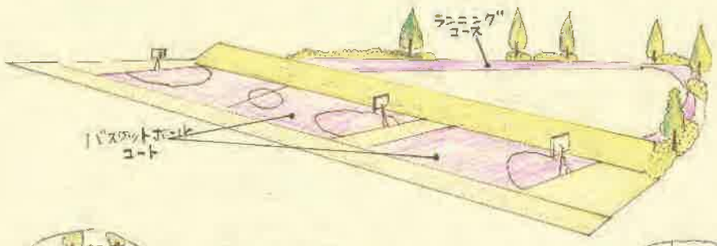
公園内に、池や木をふんだんに配置することで、自然の中で静かに過ごしたいときなど、休憩スペースとして利用することができる。



道路説明

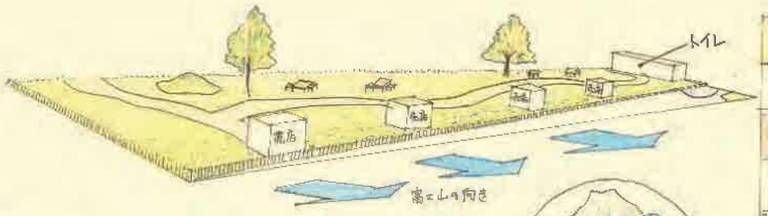
巨岡の出策が考えられることから、駅前駐車場と北門の間を通る道路を広くし、車の流れを良くする。

2車線ずつのロータリーから3車線ずつのロータリーにし、国道一号線に向かう3車線の一番マンション側の1車線は、マンションを利用する人が中心となって利用するものにする。



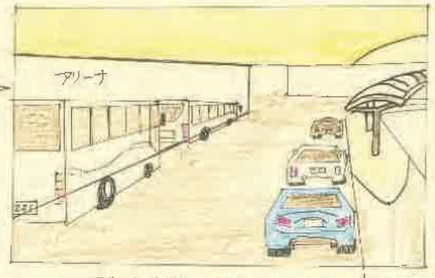
バスケットコートのある公園

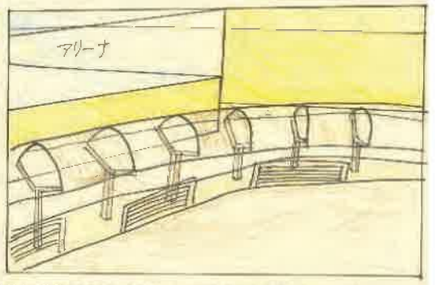
バスケットコートや、ランニングコース、内側に自由に使用することができる運動場を配置することで、より多くの人が気軽に運動することができる。



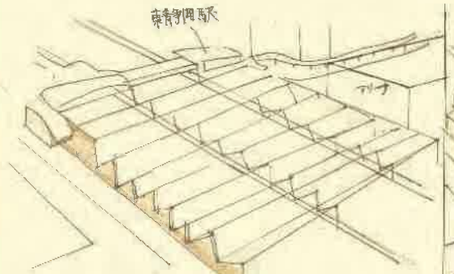
富士山が見えるデッキ

北側を見ると、富士山がきれいに見えることから、富士山をデッキのどの位置からでも見ることができるよう、長方形でなく斜めになるようにした。また、4カ所の売店や、一面の芝生を配置することで、家族連れや様々な人が食事やピクニックをすることができるようにした。



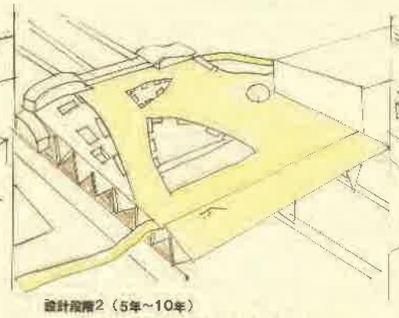


アリーナの3車線のうちの一番アリーナに近い車線は、アリーナに直接人が移動できるよう、広くし、コータリーも利用することができるようにする。また、デッキ着陸に下を車両、上を歩行者と分けることで、人と車両の事故の減少や車の流れを良くすることができ、より安心、安全に利用することができる。



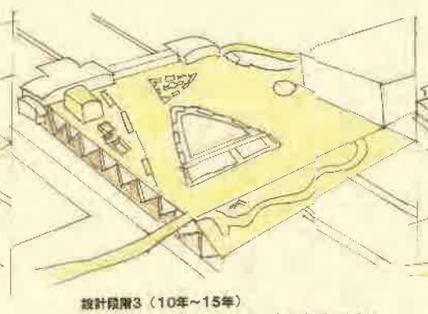
設計段階1（設計開始～5年）

新幹線と在来線の線路の間にある空間をうまく利用し、背起みが笑るよう配置。桁面自体はコンクリートで敷き詰める。



設計段階2（5年～10年）

各公園を繋ぎ、公園以外の桁面全体を足に優しいコンクリート（ソフトウォーク：海今物に含まれるゴムチップ量が多いため、足腰や膝への負担を減らすことができる。）を使用。

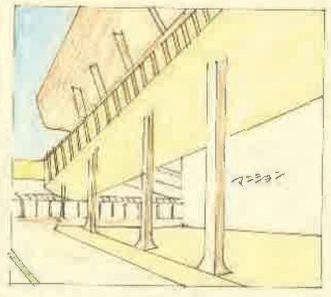


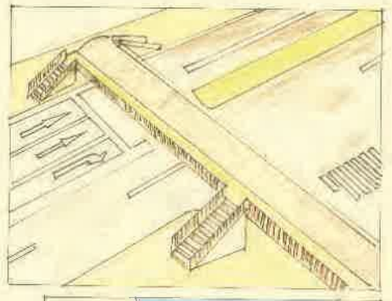
設計段階3（10年～15年）

植え込みを苔の状態のものを植える。各公園に牛や動物用の砂、スケートボードの地面を新る。

設計段階4（15年～）

アリーナの開設が完了し、車人の増長とともに人が増え、アリーナのイベント時には移動手段として、イベントがない時でも公園として賑わう。



東静岡駅と国道一号線横断を結ぶ歩道橋

デッキの下になるべく人が交ないようにするために、国道一号線を直接横断することができるような歩道橋を配置する。利用者は、東静岡駅周辺にある学校の生徒や、静岡鉄道の長沼駅へ移動する人が見込まれる。歩道橋には、屋根を付けることで雨の日にも安全に国道一号線の信号機の待ち時間を解消することができる。